

# 福島県相馬方言の自然談話資料

伊藤 芳樹

## 1. 本稿の主旨

福島県は、南北に走る奥羽山脈と阿武隈高地によって、西から会津・中通り・浜通りの3地方に分けられている。このうち筆者の出身地でもある相馬地方は、「浜通りの北部に位置し、太平洋の豊かな漁場と阿武隈山系の彩りある自然に囲まれた温暖な地域で、相馬市・南相馬市・新地町・飯舘村の4市町村で構成」されている（相馬地方御案内処 HP 「相馬地方とは」より引用・図1参照）。

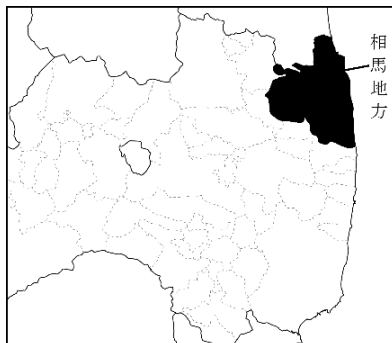


図1,福島県相馬地方の位置

菅野 宏（1982：367-368）は、この地方で話される方言形態を「相馬方言」と称していることから、本稿でもこの呼称を用いることとする。<sup>1)</sup>

全国に広がる、とりわけ過疎化が進む地方の方言は、戦前・戦後の標準語・共通語教育、高度経済成長期に始まった都市部への就職、共通語による音声マスメディアの発達などの影響から（三井はるみ 2011：29）、急速に衰退しつつある。中でも方言の消滅が危ぶまれているのは、当該地方の純粋な、伝統的な方言形態を残していると考えられる高年層話者によるものであり、相馬方言も例外なく同様の憂き目に遭っている。加えて相馬地方は太平洋に面しており、2011年3月11日に発生した東日本大震災では多くの人々が犠牲となった。また、福島第一原子力発電所での事故による放射線汚染の影響から、現在でも一部が避難指示区域に指定されており、自主避難等も含め相馬地方を離れようとする者、実際に離れていった者が少なからず存在する。そ

<sup>1)</sup> 菅野（1982：367-368）は福島県方言を、「相馬方言」「磐城方言」（以上浜通り地方）、「信達方言」「安達安積方言」「田村方言」「県南方言」（以上中通り地方）、「会津平方言」「南会津東方言」「南会津西方言」「桧枝岐方言」（以上会津地方）の10方言区画に分けている。

の傾向は特に若年層に大きく、これはすなわち、従来の相馬方言の衰退に追い打ちをかけるように、現在・未来の方言話者のさらなる減少が見込まれると言えるだろう。

したがって本稿では、上述のような相馬方言を取り巻く危機的状況を憂慮し、相馬方言について早急に記録し、整理・保存していくことを目的とする。共通語や関西弁といった世間に認知されているのは、自然と耳に覚えを抱き、また意識せずともメディアなどを通して何らかの形で記録として残されているが、相馬方言を含めたそうではない地方の方言は、多くの場合意識的に保存しようとしない限り、記録としてはほとんど残らないものである。相馬方言に囲まれ、自らも話者として育ってきた筆者も、それを実際に文字に残した記憶はない。しかし、近年録音技術が発達して高音質の音声を手軽に記録できるようになり、方言による会話をそのまま保存できるようになってきている。基本的に話し言葉・会話でのみ用いられ、書き言葉としては使われない方言の特性上、日常に用いられている話し言葉は、そのままの自然な話し言葉として記録していくべきだと筆者は考える。つまり、方言をより自然な形で“生きたまま”記録し、保存していくことが、方言を残し、後世に伝えていく上で非常に重要なことだと考える。

より自然な形の方言を残す手法として、方言話者同士の談話を傍聴し録音する、自然観察調査を通じた談話資料の収集・作成がある。しかし、相馬方言の談話資料については、管見の限りでは福島大学人文社会学群（2015）のみに止まり、福島県方言においても非常に少ない。川越めぐみ（2012：61-62）には、被災地域における方言研究の件数を地域別・分野別に計上した表が、次のように示されている。

県	音声	語彙	方言集	文法	言語行動	待遇表現	談話資料	その他
青森	34	37	28	34	0	9	3	18
岩手	49	33	29	33	8	13	7	18
宮城	61	48	81	48	18	10	8	17
福島	37	30	42	29	1	14	1	29
茨城	9	23	14	7	1	1	4	5
千葉	16	40	47	19	1	2	6	5

表 1.被災地域の研究概要（単位：件）

（東北大学方言研究センター（編）2012：61より引用・一部改訂）

調査漏れ等々から幾分か誤差は生じ得ようが、それでも被災地域における方言研究分野は、表 1にあるように、「全体的な傾向としては音声、語彙、方言集、文法といった基礎的な分野（p.61）」に偏っていることが分かる。その一方で、

特に談話資料は、方言の会話をそのまま録音または文字化しているものであり、貴重な資料としての価値をもっているが、その数は十分とは言えない。特に、福島県は被害の大きかった地域であるにもかかわらず、これまでの談話資料の蓄積は極端に少ない。

と、福島県方言においては、談話資料を用いた研究件数以前に、談話資料自体の記録の少なさが取り立てて述べられている (p.62)。

さらに談話資料は、音声資料としても文字化資料としても非常に貴重な資料であり、談話のテーマを話者の生活体験などに据えれば、日本語学的側面に加えて文化・生活の側面においても、非常に価値のある資料になるであろうと考える。つまり、談話資料を保存すること自体が、文化財の保護に繋がるであろうとも考えることができるのである。

以上、本稿では相馬方言の記録に際して、自然観察調査を用いてより自然な形の音声資料を収集し、それをもとに、他の形式の方言資料や研究分野にも増して急務であると言えよう談話資料を作成・保存することを主眼に置くこととする。

## 2.調査の詳細

一般的に「方言話者」といえば、高年層の方々を指して言われることが多いが、筆者も含め、実際には若者であっても、母方言が共通語・東京方言以外にあるという人は山ほど存在する。しかしながら本稿では、これまで述べてきた通り、相馬地方で話される伝統的な方言を収集し、資料を作成していこうと考える。したがって、本稿では対象とする方言話者を相馬地方出身の高年層に絞り、選定した。なおかつ、少なくとも小学校卒業までを相馬地方で過ごし、加えて相馬地方以外の土地に住んだ年数が短い、もしくはその経験がない生え抜きの方々を、話者として設定した。

協力していただいた話者はみな、第6節の談話資料にて話者としても参加している筆者の祖母の親族や知人より選定・依頼した。そして、筆者と協力者相互の日程調整を図った上で、相馬地方の祖母及び筆者の自宅(生家)にて調査を行った。調査当時東京を拠点とする筆者に代わり、協力者に対する調査の主旨説明・依頼、談話の組分け等仲介役は祖母が一任し、談話テーマは、話者の方言形が出やすいような昔の出来事や経験を思い出させる内容を基準に2人で候補を出し合いつつ、当日の雰囲気や話者の調子、調査前に展開された雑談などに応じて決定した。本稿にて収録した話者及び談話テーマ等調査の概要については、各談話資料の冒頭を参照されたい。

また調査形態については、基本的に話者2名1組とし、それぞれピンマイクを装着していただき、ステレオ形式で録音した。また、自然な談話が展開される雰囲気作り

を重視したことから、傍聴者として彼らに同伴でいらっしやった相馬地方在住の方々にも遠慮なく、会話に参加していただいた部分もある。なお、彼らの発話も談話資料には収めたが、ピンマイクは取り付けていただかなかった。

### 3. 筆者の詳細

自然談話資料を収集するには、いかにしてより自然な方言形を話者から引き出すかを考えていく必要がある。したがって、普段の会話と変わらぬ環境を提供し、円滑な談話が展開できるように、わずかながらその場に立ち会う筆者自身も談話に参加した。筆者と話者は全員相互に顔見知りであったり、筆者を子供の頃から一方的に把握していたりした点、そして筆者自身も言語形成期を相馬地方で過ごし、相馬方言を母方言としている点で、自身の発話によって話者の方言形が崩れることは考えにくいと想定したからである。また、収録された音声資料の文字化及び共通語訳のほとんどが、筆者の内省によるものであることから、筆者自身が相馬方言の文字化・共通語訳の資格を有することを確認するために、筆者の詳細情報を以下に示す。

生年・出身：1990年・相馬市柚木地区

両親の出身地：父…郡山市安積町 / 母…相馬市柚木地区

居住歴：0～18歳：相馬市柚木地区 18～19歳：宮城県仙台市

19～23歳：東京都杉並区 23～25歳（執筆時）：埼玉県川口市

### 4. 文字化・共通語訳の凡例・規則

収録した方言の文字化・共通語訳については、国立国語研究所（編）（2006）及び東北大学方言研究センター（編）（2013,2014,2015）における凡例や規則を参考にし、それに一部手を加えた。

#### 4.1. 文字化・共通語訳に際して

文字化にあたり、方言はカタカナで上段に、その共通語訳は漢字仮名交じりで下段に表記し、2段1組として相互に対照しやすいように示した。

このうち上段については、以下に示すように可能な限り表音性に忠実に文字起こしを行った。

長音…「ー」

助詞…「は」→「ワ」、「を」→「オ」、「へ」→「エ」

鼻濁音…ガ行鼻濁音「ガ」「ギ」「グ」「ゲ」「ゴ」

入り渡り鼻音やガ行鼻濁音の前に露骨に現れた鼻音などについては、上付き文字「ㇿ〇」と適宜表記した。

また下段について、上段のカタカナ表記と区別させるため、外来語やオノマトペなどの一般的にカタカナ表記が好まれる語彙や表現以外については、カタカナ表記が推奨されるだろうと判断しない限りは平仮名で表記した。

#### 4.2.発話者や固有名詞など

発話単位…1人の話者が続けて話し、発話権が交替・移行するまで連続してなされた発話を1発話単位とした。

発話番号…発話単位ごとに001,002,003,…(半角)と通し番号を付した。

話者記号…談話調査に参加している話者をA,B,C,…(半角)とした。談話資料では、発話番号と話者番号を併記させることで発話単位を明示させることとする(例:001A:~,002B:~)。また、調査者である筆者による発話は「調」を充てた。㊦

固有名詞…談話の場に居る話者以外の第三者固有名詞を出現順にX01,X02,X03,…(半角)、地名固有名詞をY01,Y02,Y03,…(半角)と、それぞれアルファベットと数字で示した。

#### 4.3.記号

音声としては直接現れない表現も、必要に応じて書き起こしている。上下段いずれにも記入されるものと、下段にのみ記入されるものがあり、それぞれに用いられる記号を以下に【】に囲う形で連ねていく。

---

㊦ 第2節でも述べた通り、調査は基本的に話者2名1組で行われ、各々にピンマイクを装着して臨んでいただいたが、同伴でいらっしゃった方々が談話に参加する際には、ピンマイクを装着していただくが、話者2名のサポートとして談話を円滑にする役回りを担っていただいた。しかしながら、彼らであっても話者として十分に条件を満たすのなら積極的に談話資料に残していくという方針をとり、彼らの発話にはC以降の話者記号を充てることとした。

#### 4.3.1.上段及び下段

- 【。】：句点…ポーズがあり、意味上1つのまとまりを持つ文の文末と考えられる箇所。
- 【、】：読点…基本的にポーズがあり、息をついた箇所、また意味の切れ目と考えられる箇所。<sup>②</sup>
- 【(○：)】：相槌…1人の話者が連続して話している時に、発話権の交替・移行が起こらない程度に口を挟んだり、話を遮ったりしている箇所。“○”には話者記号が入る。なお、閉じ括弧の直前に句読点が出現する場合は省略した。
- 【？】：疑問符…疑問文・質問文や問い返しなどで相手に働きかける箇所。
- 【{ }】：非言語音…文字として表せない行為。<sup>④</sup>
- 例：{笑}…笑い声など、{吹笑}…吹き出し笑い、{間}…間  
{詰}…言葉詰まりなど、{直}…言い直しなど、{曖}…げつぷ  
{咳}…咳、{途}…他者に発話を遮られるなどの発話の途絶え
- 【□□□】：聴き取れなかった箇所。

#### 4.3.2.下段のみ

- 【「 」】：かぎ括弧…“○○と言った”“○○と思った”などの発言・思考の部分に用い、直接話法を表す。
- 【[ ]】：共通語訳の際に補った箇所。主語や指示語、助詞、談話の前後の展開などを加えて示した。
- 【[= ]】：言葉の意味の説明・意識。俚言や独特の言い回し、指示語などについて、分かりやすく換言した。
- 【///】：対応する共通語訳が不明な箇所。
- 【×××】：言い淀みや言い間違いなどの箇所。

#### 4.3.3.その他

- 【.....】：周囲の環境の変化等が原因で発せられた、談話の流れとは関係な

---

<sup>②</sup> 読み易さや意味の取り易さを優先させたため、実際の発話におけるポーズの有無から便宜的に加えたり取り去ったりした箇所がある。

<sup>④</sup> 【{笑}】については、その度合いを考慮せずに表記を一元化した。



## 5.自然談話資料 1

### 収録概要

収録地点	<small>ふくしまけんそうましゆぬき</small> 福島県相馬市柚木地区
収録日時	2013（平成 25）年 8 月 27 日
話者詳細	A 女 1939（昭和 14）年生 [B・C の知人] 出身 …相馬市磯部地区 22 歳～ …同柚木地区在住 B 女 1945（昭和 20）年生 [A・C の知人] 出身 …南相馬市原町区 19 歳～ …同柚木地区在住 C 女 1932（昭和 7）年生 [A・B の知人] 出身 …相馬市日下石地区 12～18 歳…相馬市柚木地区 18～19 歳…福島市 20～22 歳…南相馬市小高区 23 歳～ …相馬市柚木地区在住 調 男 1990（平成 2）年生 [筆者兼調査者・C の孫]
収録場所	<small>よもぎた</small> 福島県相馬市柚木字蓬田 話者 C・調査者自宅
話 題	最近部落に出没したイノシシ
収録時間	13 分 02 秒

収録担当者（調査者） 伊藤 芳樹  
文字化担当者 伊藤 芳樹  
共通語訳担当者 伊藤 芳樹



001B : イノシシーノ ハナシナンダゲド、シガツノ ゲジュンコロニー、アノー  
イノシシの 話なんだけど、 4月の 下旬頃に、 あの、

クロイ モノガー タンボン ナガニー、ダンダン (C : □□□) ヤマノ  
黒い ものが 田んぼの 中に、 だんだん (C : □□□) 山の

ホーカラ アルツェキタンデス。(C : ンー) ソレデ、アレワ  
方から 歩いてきたんです。(C : うん) それで、「あれは

ナニダベナー? ヘド、ソゴニ バックホンガー チョー カワ  
何だろうなあ?」××、そこに / / / / / が ちょうど 川

ナオシツカカラ、アツタンダゲド、 ナニガ アルツェキタナードオモツテ  
直していたから、あったんだけど、「何か 歩いてきたなあ」と思って

ミデダラ、イノシシナンダヨ アラ、イノシシダードオモツテ ミデダラ  
見てたら、イノシシなんだよ。「あら、イノシシだ」と思って 見ていたら、

X01 サンノ マエマデ アルツェッタノ。(調 : ンー)

X01 さん [家] の 前まで 歩いていったの。(調 : うん)

ノッコノッコドナ ソシテ、ワダシ イヌ ツレダダモンデー、サンポン  
のっこのっことな。そして、私 犬 連れていたもので、散歩に

デガゲダー。 ソシテ ムゴーガラ X02 チャンガ クルマデ キタンダ  
出かけた [んだ]。そして 向こうから X02 ちゃんが 車で 来たんだ

チョード。ンデ イヌワ ワンワン ホエル、ムゴーガラ キタ  
ちょうど。それで、犬は ワンワン 吠える、向こうから 来た

X02 チャンワ、ケーテギ ナラシテ ピーツッタ ドギニ

X02 ちゃんは、警笛 [=クラクション] 鳴らして「ピー」っていった 時に、

ホノ イノシシワ、(A : ンー ンー) ヒョンツト ミダラ、  
その イノシシは、(A : うん うん) [私が] ヒョンっと 見たら、

グラット ムイダラ マッスグ アノ ハー ヤマノ  
[イノシシが] ぐらっと 向いたら、真っ直ぐ あの / / 山の

ホーニツデ オハガノ ホーニ。(A : アー) ホントギ カワオ  
方に行って、お墓の 方に。(A : ああ) その時 [の] 川を

コスツト {詰} ホノ イキオイワ スゴガツダンダヨ。(A : アー)  
越すと [きの] {詰} その 勢いは すごかったんだよ。(A : ああ)

イッサンニ ハ ヤマノ ホームガゲデ、(C : カワワ トビノッコイダン?)  
一目散に / 山の 方目がけて、(C : 川は 跳び越えたの?)

トビノッコイダダヨ ハー。(A:トブダ?) (C:ホー) トブダド ハ。  
跳び越えたんだよ /。(A:跳ぶんだ?) (C:ほお) 跳ぶんだよ /。

(C:トブノ?) (A:ハー) トンダダヨ アスコ。(A:シー) ソシテ、  
(C:跳ぶの?) (A:はあ) 跳んだんだよ あそこ。(A:うん) そして、

X03 サンノ タノ ホーサ ハー、(A:イッタ) イッサニ イッタダナ。  
X03 さんの 田の 方に /。(A:行った) 一目散に 行ったんだな。

(A:シー) ンデー イノシシツノァ ジッタイ ミダゴド  
(A:うん) それで、イノシシっていうのは 実際 [には] 見たこと

ナイノヨ オッキー コー イノシシワ。(C:シー) ソレガ、チーサイノワ  
ないのよ、大きい こう イノシシは。(C:うん) それが、小さいのは

アッタノ。ソレモ ワガンナガダノ イノシシダガ  
[見たことが] あったの。それも 分からなかったの、イノシシだか

ナニダガ ワガンナインダゲド シマニ コーナッタ チーサイノ  
何だか 分からないんだけど、縞が こうなった 小さいの、

ウヂノ イヌガ ワンワン ワンワン ホエルモンデ、アノー、 ナニーデ  
うちの 犬が ワンワン ワンワン 吠えるもので、あのお、「何で

コンナニ ホエンダベ? ニツチュー ナニガ キテンノガナー?  
こんなに 吠えるんだろう? 日中 [なのに]、何か 来てるのかなあ?」

ドモッテ ミダラ、チョード スイドーン トゴディ ミズ ノンデダダヨ  
と思って 見たら、ちょうど 水道の 所で 水 飲んでたんだよ、

ホノ イ {話} イノシシガ。{笑} {A・C・調:笑} ソシテ (A:コレワ  
その イ {話} イノシシガ。{笑} {A・C・調:笑} そして、(A:これは

コレワ) ア、コレワ、コレガ ウリボーッテユンダードオモダノ。  
これは)「あ、これは、これが うりぼーって言うんだ」と思ったの。

(A:アー) {調:笑} チョード コー ウリノヨーニ スジガ  
(A:ああ) {調:笑} ちょうど こう 瓜のように 筋が

ハイッテダノナ。(調:シー シー) (A:アー シーシー シーシー  
入ってたのな。(調:うん うん) (A:ああ うんうん うんうん

コンドモ) (C:アー コドモノ ウヂワナ) アレ、チーサイ コンナ、マルイ  
子供) (C:ああ 子供の うちはな) あれ、小さい こんな、丸い

ヤツダアラ。(A:アー シー) (調:シーシー シーシー) コンナ  
やつだから。(A:ああ うん) (調:うんうん うんうん) こんな [に]

チッチャガッタンドヨ。  
小さかったんだよ。

002A : ンジャ カワイーナ。  
それじゃ かわいいな。

003B : ンー カワイガッタンド。 (A : ンー) アレ コイツー、ドモッダラー  
うん かわいかったんだ。 (A : うん) 「あれ こいつ」 と思ったら

ワダシニ ホラ、イッタモンデ ニゲデ、 (A : ンー) ヤマノ ホーニ  
私が ほら、行ったものだから 逃げて、 (A : うん) 山の 方に

コー ノボリハジマッタンド。 (A : ンー) コレ ノッコノッコ ハシッカラ  
こう 登り始めたんだ。 (A : うん) 「これ のっこのっこ 走るから、

ナニガデ ハダイダラ {A : 笑} ハダガエンノガナー？ナンテ  
何かで 叩いたら {A : 笑} 叩けるのかなあ？」なんて

オモッタノ。 ソシタラ、 アノ チョード、ソノ コヤン ドゴニ  
思っ [て見てい] たの。 そうしたら、あの、ちょうど その 小屋の 所に、

コー アノ イマノ トンボ、 ナラスヤヅガー (A : ンー)  
こう あの 今の [=今で言う] トンボ、 [土を] ならすやつが、 (A : うん)

(調 : ンー ンー) ツルサガッティアラ (C : ンー) ア コイツデ  
(調 : うん うん) 吊り下がっているから (C : うん) 「あ これで

ハダイデクイッペドモッデ、ヤマサ コー ノボリガゲダ ドゴ バサーット  
叩いてやろうか」と思って、山に こう 登りかけた 所 バサーっと

ウシロガラ イッデ ハダイダラナー ヤマノ チューカッカラ コロット  
後ろから 行って 叩いたらなあ、 山の 中腹から ころっと

オコッテキタンダヨ。 {A : 笑} アレ、ナンダ コラ ドゴガ ワリ  
落ちてきたんだよ。 {A : 笑} 「あれ、何だ これは、どこか 悪い

ドゴ ハダイダガナー？ドモッタンドゲド、 マダ  
所 叩いたかなあ？」 と思ったんだけど、 [起き上がって] また

ノボリハジマッタノ ホノ イノシシワ。 (A・C : ンー) ソシタラ、 キノ  
登り始めたの、 その イノシシは。 (A・C : うん) そうしたら、木の

ネッコガ ズーット ナガッタ ドゴニ アダマ ツッコンデシマッタンドナ。  
根っこが ずーっと なかった 所に、 頭 突っ込んでしまったんだな。

(A・C : ンー) イノシシノ アダマ ホノ ウリポーナ。 (A : ンー)  
(A・C : うん) イノシシの 頭、 その うりぼー [の] な。 (A : うん)

アー コンデア モーイッカイ ハダギマショードモッデ ハダイダダヨ  
「ああ これでは もう1回 叩きましょう」と思って 叩いたんだよ。

(A: ハダイ {途}) ウシロガラ イッデナ。(A: ンー) アダマ  
(A: 叩い {途}) 後ろから 行ってな。(A: うん) 頭 [が]

ササッテダカラ。ホーシタラ {笑} {C: 笑} (A: アー  
[木の根元に] 刺さってたから。そうしたら、{笑} {C: 笑} (A: ああ

ニゲランニェガッタノナ?) ニゲランナガッダノ。  
[頭がはまっでいて] 逃げられなかつのな?) 逃げられなかつたの。

(A: ニゲランニェガッタダ) コノー キノ ア {詰} (A: ンー ハイハイ)  
(A: 逃げられなかつたんだ) この 木の あ {詰} (A: うん はいはい)

コゴサ ハイッタガラ。(A: ンーンー) (C: ホゴサ、ハー {直})  
ここに 入ったから。(A: うんうん) (C: そこに は {直})

ハサマツカア) ホシター ゴロント ハ (A: ンー) ホロッデキテ、<sup>6</sup>  
挟まったから) そうしたら ごろんと / (A: うん) 落ちてきて、

(A: アー) ダマーッテンダヨ。 ア、コレワ (A: コレワ)  
(A: ああ) 黙って [=動かないで] いるんだよ。「あ、これは (A: これは)

シンジマツワー コレ {A: 笑} ドモッデ ハー、{C・調: 笑}  
死んでしまったわ これ {A: 笑} と思って //、{C・調: 笑}

タンガクノモ <sup>6</sup> イヤンダ ハ、ドースンノモ イヤンダドモッデ  
「運んでいくのも 嫌だ /、何するのも いやだ」と思って、

(A: ンー) ヤマノウ、ヘリダッダガラ、(A: ンー) アー ス コンデア  
(A: うん) 山の ヘリだったから、(A: うん) 「ああ / これでは

スコップデ ハー アナ ホッデ コーサ ンメデケーツペガー? {A: 笑}  
スコップで // 穴 掘って、ここに 埋めてあげようか?」 {A: 笑}

<sup>6</sup> ホーロク (動) ホロク、ポーロクともなる。

おとす、遺失する。

出雲地方で雨などの落ちることを「ぼろける」といふ、親類であらう。ほろり (涙を落すかたち) と通ふもののやうである。

二円ばーりへえーってた財布ホーロッチまった。 (『相馬方言考 改訂版』p.156 より引用)

<sup>6</sup> 「タンガク」は「たかく (手舁く)」が語源で物を持上げる、たづさへるにいふ。「舁く」は駕籠舁 (かごかき) の「かき」の動詞「かく」と同じで、両手をかけてかかへあげるにいふ語。鼻音「ン」は「まんくそ (馬糞)」「てんまり (手毬)」などの流儀で添加したもの。

(以上『相馬方言考 改訂版』p.27 より引用)

ドモッデ、(A・C:シー) アナ ホッデー、ホコサ ハ (A:シー)  
と 思 っ て、(A・C:うん) 穴 掘 っ て、 そ こ に / (A:うん)

ゴロッド ホイツデ ヒッパッデ ハ ツチ カブセデ、(C:シマイガッ)  
ご ろ っ と そ い つ で 引 っ 張 っ て / 土 かぶせて、(C://)//

(A:アー) オイダノナ ハ。ダーラ ハー コレワ ウリボーダ  
(A:ああ) 置いたんだな /。だから //「これが うりぼーだ」

ドオモッデ ソレイライ ミダゴドワ ナガッダノ  
と 思 っ て、 そ れ 以 来 見 た こ と は な か っ た の。

サンネンクライマエダッタガラー。  
3年くらい前だったから。

004A: シー ソーダ。(B:シー) ソノコロワ ウチノ ホーニ イッパイ  
うん そうだ。(B:うん) その頃は うちの 方に いっぱい

イダノヨ。シー。  
[イノシシが] いたのよ。うん。

005B: ホノ ウリボー ウリボーッデ ミンナ ユーンダゲド ウリボーッヂャ  
その「うりぼー うりぼー」って みんな 言うんだけど、「うりぼーっては

コノゴドダドモッデダラ (C:サンネンマエ ハ) コドシガ、  
このことだ」と思っているうちに、(C:3年前 /) 今年が、

(A:シー) ヒンパンニ デルヨーンナッタダヨ。ソレガ デデクンノガ  
(A:うん) 頻繁に 出るようになったんだよ。それが、出てくるのが

ヨル デデダダナ。タノグロデモ 田畔でも (A:ヤコーセーダガラ、ナ)  
夜 出 っ た ン だ な。 田 畔 で も 何 だ も (A:夜行性だから、 な)

ミンナ コユニ ハー、(調:シー) チラガシテ ハ。(A:シー ソー)  
みんな こういう風に //、(調:うん) 散らかして /。(A:うん そう)

イヤ イシデモ ナンデモ アノ ハナワ スゴイドナ。(A:シー) コノ  
いや 石でも 何でも あの 鼻は すごいよな。(A:うん) この

ハナデ ミンナーナ ホ {直} (調:シー シー) カダイ ドゴデモ  
鼻で みんな 掘 [って] {直} (調:うん うん) 固い 所でも

---

田畔 【田畔】 [名] 田のくろ。あぜ。

たの畔 (くろ) 田と田の間に土を高く盛ったところ。あぜ。

(JapanKnowledge Lib・親見出し「た【田】」より)

ナンデモ (A: ホンダモンナ) ミナーナ コー ホッティグダガラ。  
何でも (A: 掘るんだもんな) みんな こう 掘っていくんだから。

006A : ① \_\_\_\_\_ シー \_\_\_\_\_ ミミズァ タベル ッデュッダナ。

① \_\_\_\_\_ うん 「ミミズ 食べる」って言ったな。

006B : ① (C: ミミズ タベ) メンメズ クイサ クンダ ッデュンダナ。

① (C: ミミズ 食べ) 「ミミズ 食べに 来るんだ」って言うんだな。

A : ②ンダラ \_\_\_\_\_ アゼーナ、 \_\_\_\_\_ ホロ ホレーッダタ。

②そうだから 畔な、 \_\_\_\_\_ // // // // //。

B : ②シー。 \_\_\_\_\_ シーだ。

②うん。 \_\_\_\_\_ そうだ。

007B : ソレガラ コト {直} シー サイサン ソノ Y01 コードナヘンカラ、ホノ  
それから 今年 {直} うん 再三 その、Y01 公道らへんから、 その

{詰} Y02 ノ ホーガラ、ミルヨーンナツタンダヨナ。ソシタラ タンボニ

{詰} Y02 の 方から 見るようになったんだよな。そうしたら 田んぼに

ハイルンダヨ ホノ イノシシガ。タンボニ サイサン ハイッデ ハー  
入るんだよ その イノシシガ。田んぼに 再三 入って //、

ター ウエデガラモ ハイルワ、 コレワ ドーシヨモネイ {詰}

田 [を] 植えてからも 入るわ、「これは どうしようもない」{詰}

オッキグ アナ ホッデ コタット コ {直} ジブンモ ポタット  
大きく 穴 掘って こたっと こう {直} 自分も ぼたっと

ネラエルクレニ ホッティグダガラ。(A: シー) ホンデ コレ ナニ  
寝られるくらいに 掘っていくんだから。(A: うん) それで これ「何

シタラ コナグナンダガ?ドモッテ、 \_\_\_\_\_ イヤー スズ ツケデミダリー  
したら 来なくなるのだろうか?」と思って、いやあ 鈴 つけてみたり

ハ、デハイリグヂ サガシデ トダンオ アデデミダリサ。ホシタラ  
/、出入り口 探して トタンを あててみたりさ。そうしたら

アルドギ、シー ヨル ホノー ピカピカ ヒカルモノー ツケレバ、ア {詰}  
ある時、 うん「夜、 そのお ピカピカ 光るものを つければ、× {詰}

コナインデネガ?ツテ \_\_\_\_\_ ツケデミダリ、ラジオオ カッデ  
来ないんじゃないか?」って [言われたから] つけてみたり、ラジオを 買って

ナラシテミダリ、アドワ コーモリ。 {A: 笑} テレビデ ヤッタ  
鳴らしてみたり、あとは コウモリ [傘]。{A: 笑} テレビで やった

ドゴ ミルド コーモリオ コー、ナ、ヒロゲデ タンボニ オゲバ  
所 [を] 見ると、コウモリ [傘] を こう、な、広げて 田んぼに 置けば

コネード。 ホンデ ニホンクライ シテ Cサンカラモ {詰}  
来ないって。それで 2本くらい して Cさんからも {詰}

コーモリ イダダイデ、ソレモ サシテ、オイダンダガラ タンボニ。  
コウモリ [傘を] 頂いて、 それも 差して、置いたんだから 田んぼに。

(A: ンー) ソシテ コナグナッダナードオモッデダラ  
(A: うん) そして「[イノシシが] 来なくなったなあ」と思っているうちに、

コンドァ マダ クサ オイデキテ クサカリ ハジマッダラ マダ  
今度は また 草 生えてきて、草刈り 始まったら、 また

コンドァ クロ コー コワシデ アルグンダヨ。(A: ンー)  
今度は [田の] 畔 [を] こう 壊して 歩くんだよ。(A: うん)

ズイブン サイサン ソシタラ サイキンワ ヤサイ {直}  
随分 再三。 そうしたら 最近は 野菜 {直}

ジャガイモバダゲニモ (A: ンー) ハエルヨーン ナッタンダネ。(調: ンー)  
じゃがいも畑にも (A: うん) 入るように なったんだね。(調: うん)

ンー ヨソデ、ア ホッチデモ ジャガイモ クワッチャー コッチデモ  
うん 他所で、「あ そっちでも じゃがいも 食べられた、 こっちでも

クワッチャー ハヤグ トタンデ カグワナクテネー  
食べられた、 早く トタンで [畑の周りを] 囲わなくちゃねえ」

ッテ ハジマッタンダナー。ンドゥ ウヂデモ、アー  
って [言って対策が] 始まったんだなあ。 それで うちでも、「ああ

コンデワ ダメダ コゴサ コラッチャラ ンメ ゼンメツダ  
これでは だめだ。ここに 来られたら お前 [じゃがいもが] 全滅だ」

ドモッデ グルーット カゴッテ、アノー、トダンデ ハ、  
と思って、ぐるっと [畑を] 囲って、 あのお、トタンで /、

マワシタラ エ {直} イッコモ タベランナクテ  
[畑の周りを] 回したら × {直} 1個も 食べられなくて

ムギズダッタンデス。(調: ンー) ンー。  
無傷だったんです。(調: うん) うん。

008A : ① ジャガイモワ ダイブ シューカグシタモンナー。

① じゃがいもは だいぶ 収穫したもんなあ。

008B : ① ジャガイモワ ハ ダイブ ワ シューカグシマシタ

① じゃがいもは / だいぶ × 収穫しました

B : ② オガゲサマデ。{笑}

② おかげさまで。{笑}

009A : イヤ (C : □□□) ドーゴデモ ジャガイモ キチ {直} ジャガイモ  
いや (C : □□□) どこでも じゃがいも きち {直} じゃがいも

キチョーナンダヨー ハー。(B : ジャガイモ ホントニ) ココワ。  
貴重なんだよ /。(B : じゃがいも 本当に) ここ [の部落] は。

010B : ソゴノ (B : ホントニナ) X04 サンデナンテ マ、 Y03 ニ イッテ  
そこの (B : 本当にな) X04 さんでなんて まあ、Y03 に 行って

カエッチテ ミダラ ヨル ハ、{A : 笑} アラー ジャガイモ ネードー  
帰ってきて 見たら 夜 /、{A : 笑}「あらあ じゃがいも ないぞ」

ッテ。ソシテアラ オバーチャンワ、アノー オトーサンガ オンデワ  
って。そうしたら おばあちゃんは、あのお お父さんが 「それならば

バーチャン アレ アミ カゲデケーツカー?ツツタツケー、バーチャンワ  
ばあちゃん あれ 網 かけてくれるか?」って言ったら、ばあちゃんは

ンデア ホーユ オネガイシマスツデ ムスメサンワ、  
「それならば それ [を是非とも] お願いします」って。娘さんは、

ホレヨリ オゴシタノ イーッデユツタンダゲドー ホノ  
「それより 起こしたの [=方が] いい」って言ったんだけど、その

カゴツタンダッデ コユ フーニ。(A・C : ンー) ソシタラ カゴツタ  
囲ったんだって こういう 風に。(A・C : うん) そうしたら 囲った

アシタノヒ ミンナ スペーット モツテガッチ。{笑}  
次の日 [にじゃがいもを] みんな スペーっと 持って行かれた。{笑}

{A・C・調 : 笑} イヤイヤ ドッチガ イヨガツタンダガ (A : ンー)

{A・C・調 : 笑} いやいや「どっちが よかったのか、 (A : うん)

ワガンナガッダッテ ハ。(C : アー) ホントニ コノヘンデ ミンナー  
分からなかった」って /。(C : ああ) 本当に この辺で みんな

ムギズナ ドゴー、(A : ナイナー) ナガツタンダヨ ハ。(A・調 : ンー)  
無傷な 所 [は]、(A : 無いなあ) 無かったんだよ /。(A・調 : うん)



(C: ナー X05 チャン トゴロア □□□ {途}) ンー、X06 サント  
(C: なぁ X05 ちゃん [の] 所は □□□ {途}) うん、X06 さんと

ウチダゲクレダッダダヨ、 ホントニ。タマゲダナ。  
うちだけくらいだったんだよ、本当に。びっくりしたな。

011A: アミデワ ダメナンダモンナ?  
網では だめなんだもんね?

012B: アミデワ ダメナンダッテ。(調: ンー) (A: ンー トダ {途} ンー) アミワ  
網では だめなんだって。(調: うん) (A: うん トタ {途} うん) 「網は

オヤガ (C: アミワ ダメナノ?) コー ウエーサ (A: ンー)  
親 [のイノシシ] が (C: 網は だめなの?) こう 上に (A: うん)

モチアゲデ、シタガラ コ (A: ソー) イレデヤルンダ  
持ち上げて、下から こう (A: そう) [うりぼーを] 入れてやるんだ」

ッテ、コ {直} (C: アラー) コ {直} (調: アー) コー イレンダッテ  
って、「こ {直} (C: あらぁ) こ {直} (調: あぁ) こう 入れんだ」って、

(A: コーユ フーニ シンダ) X07 チャンワ ュッデダダヨナ。  
(A: こういう 風に するんだ) X07 ちゃんは 言っていたんだよな。

(A: ンー) (C: コ {直} コーユ) ンー。  
(A: うん) (C: こ {直} こういう) うん。

013A: ンダガラ トダンミダイナ、カダイノデ コー アダルヨーナ  
そうだから トタンみたいな、固いので こう あたるような

(調: ンー) ンー。  
(調: うん) うん。

014A: ① アンマリ タガサワ、 ナ、  
① あんまり 高さは、 な、

014B: ① トダンデー、トニカグー、コノクライ ヨンジュッセンチー、 ン、  
① トタンで、 とにかく、 このくらい 40センチ、 ン、

A: ② タガグナクテモ イノシシワ、 ンー  
② 高くなくても イノシシは、 うん

B: ② タガグナクテモ イノシシワ アシガ ミチカイガラ、  
② 「高くなくても、 イノシシは 足が 短いから、

A: ③ トビランネ ンー。

③ 跳べない、 うん。

B: ③ コエランネッテユーゴドナンダヨナ。

③ 越えられない」って言うことなんだよな。

014C: ③ コエランネ。

③ 越えられない。

015B: ホンナゴドデ、 イルド ホラ、クサ カッタノ  
そんなことで、[何にも対策しないで] いると ほら、草 刈ったの [を]

カダヅゲネー ワレワレノ タンボナンカワ、ドゴデモ ホジグッデッテ  
片付けない 私達の 田んぼなんかは、どこでも 掘り返していつて

ハー、(A: ンダナ) ホノ メンメヅー、クーノニ ハ、(A: ン) アラシテ  
／、(A: そうだな) その ミミズ、 食べるのに /、(A: ん) 荒らして

アルグンダヨナ ク {詰} ドデデモ ナンデモ ミンナ  
歩くんだよな。 × {詰} 土手でも なんでも みんな

コワシティグンダガラ ハ。(調: ンー) ンー ホンデア ミンナ ハ、  
壊していくんだから /。(調: うん) うん それで みんな /、

デンキオ カッテミダリ。{笑} {調: 笑}  
[イノシシ対策のために] 電気を 買ってみたい。{笑} {調: 笑}

016A: アノ デンキモ イーノガナ? (B: デンボ {途} ン?) デンキモ  
あの 電気も いいのかな? (B: でんぼ {途} ン?) 電気も

イーノガナ?  
いいのかな?

017B: デンキナンカ ツケダッテ (A: ダメカ) ダメダッタ、(A: アー ソッカ)  
電気なんか つけたって (A: だめか) だめだった、(A: ああ そうか)

ケッキョグワ。(A: ンー) ホレゴソ イッキー、サン {直} アノー セーン  
結局は。(A: うん) それこそ 1基、 3 {直} あのお、千

(A: ンー) ナンボダガ カゲデ、(A: ンー) ヨルン ナッド コー ピカピカ、  
(A: うん) いくらか かけて、(A: うん) 夜に なるとう ピカピカ、

(C: □□□) ピカピカッテ (A: ピカピカナー) アガダノ アオダノイ  
(C: □□□) ピカピカって (A: ピカピカナあ) 赤とか 青とかに

ナッデタンダゲド、 (C: アレモ ダメダッタンダ) アレモ だめ。  
なって [光って] たんだけど、(C: あれも だめだったんだ) あれも だめ。

ホレガラ デモ ハ {途}  
それから でも は {途}

018A : ラジオモ ダメーガ?  
ラジオも だめか?

019B : ラジオワ (C : □□□) バンバン カゲデオゲバ、(A : デモ ダメ?)  
ラジオは (C : □□□) バンバン かけておけば、(A : [それ] でも だめ?)

コナイ。(A : ア アー ラジオ ンー) ンー、ラジオワ。(A : ンー) ドーユー  
来ない (A : あ ああ ラジオ うん) うん、ラジオは。(A : うん) どういう

ワゲガ ナンダガ アソコサ オグド ハイリ ワリンダガ  
わけか なんだか、あそこに 置くと [電波の] 入り 悪いのか、

ナッデネンダリ、 ナニカ {笑} {A : 笑} (調 : デンパガ) ハー デンパガ、  
鳴ってなかったり、何か {笑} {A : 笑} (調 : 電波が) ×× 電波が、

ヤマノー アレデダガ? (A : アー アー ソッカ) アドワ ホラ、 アメ  
山の あれでなのか? (A : ああ ああ そうか) あとは ほら、「雨

フット タイヘンダナンテ ハップスチロール (C : ンー) (A : ンー ンー)  
降ると 大変だ」なんて 発泡スチロール (C : うん) (A : うん うん)

カブセダリー、シッタガラダゲド、 ンー デモ、コノマエワー、アー  
被せたり していたからだけど、うん でも、この前は、「ああ

サイキン コネナードモッダラー、 X01 サンノ ワギノ  
最近 [イノシシが] 来ないなあ」と思ったら、X01 さん [家] の 脇の

ドーロニ カボチャガ、アッタンダヨナ。(調 : ンー) ソシタラー  
道路に カボチャが あったんだよな。(調 : うん) そうしたら

イヤッパリー、X04 サンデ モッテンガッチャッデ。  
やっぱり、 X04 さん [家] で「[イノシシに] 持っていかれた」って。

(A : ンー) カボチャ、 アルヨーッテユッテンダイ。(C : ドーヤッテ  
(A : うん) かぼちゃ、「あるよ」って言ってるんだ。(C : どうやって

モッテン {途} ドーヤッテ モッテキタンダガ ドーロニ  
持って [くる] ン [だ?] {途} どうやって 持ってきたんだか、道路に

オチッタンダヨ。アラ (A : アー) コレ、 イノシシダナード。  
落ちてたんだよ。「あら (A : ああ) これ、「イノシシだなあ」と [思っ]て」。

(A : オッコト {直} オッコドシティッタンダナ?) オッコドシデダグダヨ。  
(A : 落と {直} 落として行ったんだな?) 落としてたんだよ。

(A: ンー) (C: アラー) ンー。ソノウヂ、コノマエ ワダシ アノ  
(A: うん) (C: あらあ) うん。そのうち、この前 私 あの、

サゲーダ ㊦ トーッタラバ、X08 サンノー カボチャガ、 (A: ン)  
/// [を] 通ったらば、 X08 さん [家] の かぼちゃが、 (A: ん)

ナンダベナー?、 コンナニ キレーニ カボチャ ネーノニ、  
「なんだろうなあ?、こんなに きれいに かぼちゃ なくなっているのに、

ハッパ オガシネナードモツテ ㊦ コレワ イノシシガナー?  
葉っぱ [があるのは] 変だな」と思って、「これは イノシシかなあ?」

ドオモッタガラー、(A: ン) アノー X09 チャンニ、ナンダ X09 チャン  
と思ったから、 (A: ん) あのお X09 ちゃんに、「何だ X09 ちゃん

カボチャ トツテキタノカ?イノシシニ ヤラッチャノガ?ツツァケ、  
かぼちゃ 取ってきたのか?イノシシに やられたのか?」って言ったら、

イノシシニ ヤラッチャーツテ。{A・C: 笑} ンー、ユッテンダツケ。  
「イノシシに やられた」って。 {A・C: 笑} うん、言っているんだって。

ソシタラ ホリン ナガニ イッペ ハ ジャガイモ ハ、ンネ ホノ、  
そうしたら 堀の 中に いっぱい / ジャがいも /、違う その、

カボチャガ (A: アー カボチャ) ハイッテダンダド。 ンデ、 (A: ハー)  
かぼちゃが (A: ああ かぼちゃ) 入っていたんだって。それで、(A: はあ)

(C: ヤラッチェ ハ?) ヤラッチェ ハ (A: アラー) ミンナ オッコドシテ  
(C: やられて /?) やられて / (A: あらあ) みんな 落として

ハ。(A: ンー ンー) (C: アー) タベデワル インガネーデナ。  
/。(A: うん うん) (C: ああ) 食べては 行かないでな。

(A: ヒュー) ソシタラ X10 チャンガ ミズ カゲンノニ、(A: ン)  
(A: ひええ) そうしたら X10 ちゃんが「水 かけるのに、(A: ん)

ホリッコサ カボチャ ヘーッテデ ミズ ナガンニエーツデ、{笑} {調: 笑}  
堀に かぼちゃ 入っていて 水 流れない」って、 {笑} {調: 笑}

㊦ 地名か?

㊦ オカシネエー (をかしない) (形) 「ネエー (ない) は打消ではなく、オカシエの中間に「ナ」が添加されたものであらう。「をかしい」と同じく「変な、変だ」といふ意味に用ひられる。オカシネエー人だな、毒でねえーんだら食ってみな。

この梨オカシナク固くてんまくねえー。

(『相馬方言考 改訂版』p.103 より引用)

ユワッチャッテ X09 チャン。(C:ワガイン カボチャダド {笑}) {A:笑}  
言われたって X09 ちゃん。(C:自分の かぼちゃだぞ {笑}) {A:笑}

シーダド ワガイン カボチャガ ハ。ドデ リヨーシテ コー、アレア  
そうだよ。自分の かぼちゃが /。土手 利用して こう、あれは

ウエガラ シタサ (A:アー アー アー) ハラセデッカラ、(A:シー シー)  
上から 下に、(A:ああ ああ ああ) // // // から、(A:うん うん)

(C:ツグッデダガンナ) ツグッデッカラ、(A:ドデ タガイガラナ) シー  
(C:作っていたからな) 作っているから、(A:土手 [は] 高いからな) うん

シー。(A:シナ {笑}) ホンデ (C:アー ダー) シンダヨ。ダッ {話}  
うん。(A:そんな {笑}) それで (C:ああ ××) そうだよ。×× {話}

アドワ ホラ ハ ジャンガイモガ ナグナッデキタガラ X11 サンサー  
あとは ほら /、じゃがいもが なくなってきたから、X11 さん [家] に

ヒマワリデ マワレバ、 (A:シ) イヤー カボチャ ジュッコ  
日廻りで 廻っ [て聞け] ば、(A:シ) 「いやあ かぼちゃ 10 個

ナグナ {直} ナグナッダワッデ ヒトツツモ ネンダーッテ、  
なくな {直} なくなったわって [言ってる]、「1 つも ないんだ」 って、

(A:シー) ユーイハジマッタノナ。(A:シー) アドワ ホラ ユリノ ハナ。  
(A:うん) 言い始まったのな。(A:うん) あとは ほら 百合 の花。

(A:ユリ) ユリノ ネ。(A:シー) ウヂデモー ウヂサワ  
(A:百合) 百合の 根。(A:うん) うちでも、「うちには

コネードモッデダノガ ユリ ハ ゼンメツ ハ  
[イノシシが] 来ない [はず]」と思っていたのが、百合 / 全滅 /

ゼンブ ネゴソギ ハ。(調:シー) ハナー {直} ユリノ  
全部 根こそぎ / [持っていかれた]。(調:うん) 花 {直} 百合の

ハナナ、サグ コロニー ハ、ゼンブ スペット イッポンモ ナグ ハ、  
花な、咲く 頃に /、全部 スペット 1 本も なく /、

クッテッタガラ ハー。  
食べていったから //。

020A: ミンナ キューコン トラッチャンノナー。  
みんな 球根 とられたんだなあ。

021B: シンダ キューコン モ {直} タベディッタシタダ ハ。(C:キューコン)  
そうだ 球根 持 {直} 食べていったんだ /。(C:球根)

(A: イヤー) キューコン。(A・調: アー) デモ X11 サン トゴノ  
(A: いやあ) 球根。(A・調: ああ) でも X11 さん [の] 所の

マエニモ イッパイ サイデダッタベシタ? ヤマニ。(A: ウン ヤマユリナ)  
前にも いっぱい 咲いていたでしょ? 山に。(A: うん、山百合な)

(C: ンー) ンダゲドモ、サイキン マダ デデキテ フェデキタ アレナ。  
(C: うん) そうだけれども、最近 また 出てきて 増えてきた あれな。

(C: デデキタナー) (A: アー アー ソッカ) ンー、ケッコー サイデル。  
(C: 出てきたなあ) (A: ああ ああ そうか) うん、結構 咲いてる。

022A: ナンカ コー (B: ンー) バシヨ バシヨニ ヨンノーナー。  
なんか こう (B: うん) 場所 場所に よるのなあ。

(B: ンダドナー) ンー ズーット コッチニ  
(B: そうだよなあ) うん、[イノシシは] ゴうっと こっち [=南の方] に  
イダダドー ウチノヘンニー。  
いたんだよ、[私の] うちの辺に。

023B: ンダガラー ホレー (A: コノ) Y04 ノ X12 サン ユーヨニー、  
そうだから ほれ、(A: この) Y04 の X12 さん 言うように、

(A: ンー デシヨ?) Y05 ン トゴサ (A: ンー) イッタラ  
(A: うん、でしょ?) Y05 の 所に (A: うん) 行ったら、

ニジューナナトーモ (A: ンー) ナランデデー、キミ ワリクテ  
27 頭も (A: うん) [イノシシが] 並んでいて、 気味 悪くて

ニゲダッテユー ハナシダガラ。(C: ニジューナナトーモ ナランデイダノ?)  
逃げたっていう 話だから。(C: 27 頭も 並んでいたの?)

ニジューナナ イダダド。(A: ニジューナナ イダノ?) ンダド。  
27 [頭も] いたんだって。(A: 27 [頭も] いたの?) そうだって。

024A: ワッチ、(C: ウワー) {調: 笑} ゴ、(B: オドロダッダ) ゴトーデー  
私、(C: うわあ) {調: 笑} 5、(B: 驚いたって) 5 頭で

ワッチ ビックリシテ モドッタンダガラ ウチサ。(B: X3 サイノ {途})  
私 びっくりして 戻ったんだから 家に。(B: X3 さんの {途})

(調: ンー) コチヨコチヨ コチヨコチョーッテユーガラ ナンダガ?  
(調: うん) こちょこちょ こちょこちょっていうから、「なんだろうか?」

ドウダッダゲ ヤッパリ ター {直} タンボ コチヨコチヨ  
と思つたら やっぱり、田 {直} 田んぼ [でイノシシが] こちょこちょ

コチョコチョ コチョシテ タンボ {直} ウエナイー  
こちょこちょ こちょ [って] して 田んぼ {直} [苗] 植えていない

(B: ンダナ) タンボ アッダノ。⑩ ホンデ ゴチョゴチョーシデ、  
(B: そうだな) 田んぼ あったの。 それで ごちょごちょして、

アラータ ドギニ、 アラガ キコエダダカ?  
「あらあ」って言った 時に、[その]「あら」が 聞こえたのだろうか?

ニンゲンノ {詰} アノー ニオイガ (調: ン) シタンダカ? ダート ヤマサ  
人間の {詰} あのお 臭いが (調: ン) したのか? ダーっと 山に

ゴトーナノヨ オッキノ イッペギニ アドワ、ナー ドノクライダガ  
5頭なのよ、 大きいの 1匹に、 あとは、×× どのくらいだか、

ニゲダダ ワッチ ウチサ。(B・調: ン) ホイツ ヤマニ  
逃げたんだ 私 家に。(B・調: うん) そいつ 山に

ハイッデッダンノ アソゴサ。(C: ッピルマ?) アレカ {途} イ  
入っていったの あそこに。(C: [真] っ昼間?) あれか {途} ×

(B: ヨルダナ) アノー ンー ヨル。(B: ユーカタダベナ) ユーガタ。  
(B: 夜だな) あのお うん 夜。(B: 夕方だろうな) 夕方。

(C: ユーガダ) (B: ンー) ンー カラオケ ナラッテ、  
(C: 夕方) (B: うん) うん カラオケ 習って、

カイリダダダン。(C: マダ イッカイモー ミダゴド ネー)  
[その] 帰りだったの。(C: まだ 1回も 見たこと ない)

(B: ミダゴド ナイ?) (調: ネー) ンー アレッキリダ。(B: ン)  
(B: 見たこと ない?) (調: ない) うん あれっきりだ。(B: ン)

ミダノ ナイノ。  
[あれ以来] 見たこと ないの。

025A: ① ンー アドワ ハ ミナイ コッチノホーダモン。

① うん あとは / 見ない [な]、こっちの方だもの。

025B: ① X03 サイデワ ヌガナ。

① X03 さん [の所] では 糠な。

026B: {A: 笑} ヌガ フタツツ フグロ イレッタンダド コユ フーニ。

{A: 笑} 糠 2つ [の] 袋 [に] 入れていたんだよ こういう 風に。

⑩ 震災及びそれに伴う稲作の自粛・風評被害によるものと考えられる。

(A・C: ンー) マギモノ シタラ ツカウベ  
(A・C: うん) 「巻き物 [の作業を] し [終え] たら 使おう」

ドモツタ ヌガガ、 (C: ンー) アレ ネー  
と思っ [てとっておいてい] た 糠 [の袋] が、(C: うん) 「あれ ない」

ドモツダツケ、 (A: ナー) (C: ン) ドンナゴドシテ  
と思っているうちに、(A: なあ) (C: ン) 「どうやって

ハゴンダンダベ? ッテユンダナ。 ズーット ヤマノ ホーサ  
運んだんだろうか?」 っ [X03 が] 言うんだな。「ずっと 山の 方に

フタフグロー ヒッパッテッテダッデンド。 {C・調: 笑}  
2袋 [を] [イノシシが] 引っ張っていった」 っ [X03 が] 言うんだ。 {C・調: 笑}

027A: ソノ ヌガブグロー (B: ヌガブグロ ナ) ワッチ ミダノ。(C: スー  
その 糠袋を (B: 糠袋 [を] な) 私 見たの。(C: 巢

ツグッタンダベガ?) ンー ホノ、(B: ナンダガナ?) スーダガナー?  
作ったんだろうか?) うん、その、(B: なんだろうな?) 巢なのかな?

ソノマンマ ソゴニ アンダヨ。 アノー X13 チャンノー、  
そのまんま そこに [糠袋が] あるんだよ。あの X13 ちゃんの、

ゲンタンノ タンボサ、(B: タンボサナ) コー チュルチュル チュルチュル  
減反の 田んぼに、(B: 田んぼにな) こう ちゆるちゆる ちゆるちゆる

ット ヌガ、 オッコドシディッテ、(C: ン) ポトント コノ タンボン  
っと 糠 [を] 落として行って、 (C: ン) ポトンと この 田んぼの

トゴニ アッダノヨ。(C: アー) X14 チャン アラ ミデー  
所に あったのよ。(C: ああ) X14 ちゃん [が] 「あら 見て」

ナンテ アラーッダ。(C: ドンナラ ヌガ  
なんて [言うから見たら] 「あらあ」 だ。(C: それ [=イノシシ] なら 糠

クワネベ? ダラ イノシシ コ {途} (B: クワネーカラナ)  
食べないでしょ?) だから イノシシ [は] × {途} (B: 食べないからな)

クワネナ コーシテ モッディッタンダガー? (B: ドンナゴドシテ  
食べない [よ] な こうして 持っていったんだか? (B: どうやって

モッテッタンダガナ?) ドンナシテ モヅンダベ?  
持っていったんだろうな?) どうやって 持つんだろう?



028B : ① ナェッド テデワ モッディガンニェガラ マサカー イノシシ  
① だけど 手では 持っていけないから、 「まさか イノシシ

028A : ② ハナ? ハナ。

② 鼻? 鼻。

B : ② ニホンアシデ アルツラ、 ハナデ スイヅイディッタンデネガ?

② 2本足で 歩いたら、 鼻で 吸いついて行ったんじゃないか?

028C : ② ハナデ コーヤッデ モヅノ {塗}

② 鼻で こうやって 持つの {塗}

B : ③ ツッデユッタノ。ブダノ ハナミダイニ オッキガラ。 {笑}

③ って言ったの。豚の 鼻みたいに 大きいから。 {笑}

C : ③ {A : 吹笑} オッキガラナー。

③ {A : 吹笑} 大きいからなあ。

029A : ンダ ホラ チョビチョコビ コノクラインダー ダガラ、ヌガ コー  
そうだ ほら ちよびちよび このくらいだ。 だから、糠 [を] こう

(C : アー) コーイウ フニ ワイデッタ ミタイニ コー (B : ナ)

(C : ああ) こういう 風に わいていった みたいに、 こう (B : な)

(C : コボレデンノ?) イウ フニ ンー。ホンデ (B : フタフグロ)

(C : こぼれているの?) いう 風に うん。それで (B : 2袋)

タドッディングド ホノー、コーイウ フニ  
[落ちていた糠を] 辿っていくと そのお、 こういう 風に

アッタンダッテ。(C : ハー) (A : アラーッテ  
[糠袋が] あったんだって。(C : はあ) (A : 「あらあ」 っ

ビックリシテンダガラ)  
びっくりしてるんだから)

030B : マズ イノシシ、タイサグダナ。(A : ンー) デンボグ <sup>11</sup> シヅゲルーッデ  
まず イノシシ、対策だな。(A : うん) 「電牧 [を] 仕掛ける」 っ

ユーンダゲドー、ホノ デンボグ シヅゲダッテ ホゴダゲ コー、  
言うんだけど、 その 電牧 仕掛けだっ、そこだけ こう

<sup>11</sup> 現在、野生動物防除・放牧に使われている、いわゆる電気柵には、電気牧柵・電牧・電柵・パワーフェンスなど、様々な呼び名が存在します。電気柵は当初、電気「牧柵」として、牛の放牧などで使われ始めました。この名残で、未だに「牧柵」以外の場面で使用する場合でも電気牧柵、電牧と呼ばれることも多いようです。

(北原電牧株式会社 HP「ベーシック電気柵 Introduction : 電気さく? 電気柵?」より引用)

デンキ トーシテオグダゲダガラー、(A: ンー) シヤクショニ  
電気 [を柵に] 通しておくだけだから、 (A: うん) 市役所に

ユッデヤッダ。 ンジャ イッテミマスンデ  
[仕掛けるよう] 言ってやった。「それじゃ [視察に] 行ってみますので

ナンバンデスカ? ッテユー。 バンチ ユッタッテ イッコ  
何番 [地] ですか?」って言う [んだ]。番地 言ったって 一向 [に]

オドサダ ナシダガラ。(A・C・調: ンー) ヤクショナンテ ダメダ、ンー。  
音沙汰 無しだから。(A・C・調: うん) 役所なんて だめだ、うん。

(C: ジブンデ) ンデ、 アゲグノ ハデワ デンキボクサグ ツケット  
(C: 自分で) それで、挙げ句の 果ては「電気牧柵 つけると

ゼンダッテユワッチェ ホイツ (A: ン) ナンボスノ? ッテユエバ、  
いいんだ」って言われて、「それ (A: ン) いくらするの?」って聞けば、

ハンブン ジョセースルツ ハンブン、  
「半分 [は設置のために] 助成する」って言っている [んだ]。半分

ジョセーシラッチャッテ ン {詰} (A: イグラ シンダガンナー?) マ {直}  
助成されたって × {詰} (A: いくら するのかなあ?) × {直}

ナンマンモー スルモノダガラ。(A: アー、ハー) ンー。(調: ンー)  
何万も するものだから。(A: ああ、はあ) うん。(調: うん)

(A: コレモ) ハガッター ユッデヨゴシテクダサイ 12  
(A: これも) 「[被害状況を] 計って、 報告してください」

ツアッテ ゼンゼン (A: コマー {途}) X15 チャン ユーニワ、  
って言ったって 全然。(A: 困 {途}) X15 ちゃん 言うには、

ホノー、 キョーサイモ ガイトースルツテユワレダッテ、(A: ンー) ネ、  
そのお、「『共済も 該当する』って言われた」って、(A: うん) ね、

ハダゲデモ タンボデモ。(A: ンー) ンダゲドモ、 キョーサイダッテ  
畑でも 田んぼでも。(A: うん) そうだけれども、共済だって、

イッタンノ、ナンブンノイチガ ヒガイニ アイバ、キョーサイキン  
「1 反の 何分の 1 が 被害に 遭えば、共済金

12 ヨコス (動) おくり来す、おこす。普通語。

新聞こっちゃヨコセ。(下さい)

むこーさ着えたら手紙ヨコスよーに。

(『相馬方言考 改訂版』p.167 より引用)

ここでは、イノシシによる被害状況の調査結果を言葉にして伝えることを示す。

ダシマスヨッテユー アレダガラ。 (A:アー)  
出しますよ」っていう あれ [=役所の言い分] だから。(A:あぁ)

031A: ① \_\_\_\_\_ スー、  
① \_\_\_\_\_ する、

031B: ①ホーユーゴドサ \_\_\_\_\_ ガイトースルハズモ ネンダヨ  
①そういうこと [=共済金受給対象] に 該当するはずも \_\_\_\_\_ ないんだよ。

031C: ① \_\_\_\_\_ ソーデワナー。  
① \_\_\_\_\_ それではなあ。

A: ②ンダワナー チョピットダモンナー。 \_\_\_\_\_ シン シン シー。  
②そうだなあ ちょっとだもんなあ。 \_\_\_\_\_ ん ん うん。

B: ② コンナバツカリ \_\_\_\_\_ ヤラツタツテ。 \_\_\_\_\_ シー。  
② こんな [少し] ばかり やられたって。 \_\_\_\_\_ うん。

C: ② \_\_\_\_\_ コンナバツカリ ヤラツチャツテナー。  
② \_\_\_\_\_ こんなばかり やられたってなあ。

032B: ンダカラ ダマッデルシカ ネンダヨナ。 (A・調:シー)  
だから 黙っているしか ないんだよな。(A・調:うん)

(C:ナギネイリダナ) シー、ダメ ヤクショワナ。(A・C:シー) シナ  
(C:泣き寝入りだな) うん、だめ 役所はな。(A・C:うん) それで、

イノシシノ ヒガイデス ココワ イマ。(A:イノシシ) (C・調:シー)  
イノシシの 被害です、 ここは 今 [は]。(A:イノシシ) (C・調:うん)

(A:ホント)

(A:本当 [に])

033 調:ウチラデネ、 チェ シボンナイド イゲナイワゲダナ。モー  
自分たちでね、知恵 [を] 絞らないと いけないわけだな。もう

ソユノツツノワ。

そういうのっていうのは。

034A: ①ソーデスナ。 \_\_\_\_\_ {笑} サル  
①そうですね。 \_\_\_\_\_ {笑} 猿 [は]

034B: ①ネー。 ダンダン ミナミガラ キタンデネーベガ? \_\_\_\_\_ ミナミノ  
①ねえ。 だんだん 南から 来たんじゃないのかな? \_\_\_\_\_ 南の

034C: ①シー、 \_\_\_\_\_ ホノウヂ サル クンノガ? (調:シー)  
①うん、 \_\_\_\_\_ そのうち 猿 来るのか? (調:うん)

- A: ②アレイライ コナイドナー。 シー、  
②あれ以来 来ないよなあ。 うん、
- B: ② ホーノ ホラ、 イマノ シンサ {直} ナ、 ゲンパツノ  
② 方の ほら、 今の 震さ {直} な、 原発の
- C: ② サルワ キタ {直} サルワ、 キテネー □□。  
② 猿は 来た {直} 猿は、 来てない □□。
- A: ③ サルワ、 シー。 ンダカモワガンナイナー。  
③ 猿は、 うん。 そうかもしれないなあ。
- B: ③オガゲデ コッチサ ヨッデキテンノガナ? イノシシネ。 ブダナイシー。  
③お陰で こっちに 寄ってきているのかな? イノシシね。 捕まえないし。
- C: ③ ソーカモシンネ イノシシ。  
③ そうかも知らない イノシシ。

035B: ホラ。(A: ンダ) イマ ブッタッテ  
ほら。(A: そうだ) 今 [イノシシを] 捕まえたって

タバランネガラ、 ダレモ ブダナイベー?  
[放射線量を測らないと] 食べられないから、 誰も 捕まえないでしょ?

036A: ダーイタイ、(B: ンー) カリ シナイモンナー (B: ンー) イノシシワナ。  
大体、 (B: うん) 狩り [も] しないもんなあ (B: うん) イノシシはな。

037B: イ、プツ ヒトモ イナインダッテ ハ、(A: ンー ンー ンダ  
×、捕まえる 人も いないんだって /、(A: うん うん そうだ

ホンダ) ナ。(A: アー) ンー。 イマノ ワナモ、(A: ンー)  
本当だ) ×。(A: ああ) うん。 今の [イノシシの] 畏も、 (A: うん)

キョガナイ ヒトデ、(A: ンー) ヤクショガラ タノマレダヒトデナイド  
許可ない 人で、(A: うん) 「役所から 頼まれた人じゃないと

シツゲナイッデ。(A: シ {直} シツゲネー、 ンー) ンー  
仕掛け [られ] ない」って。(A: 仕 {直} 仕掛け [られ] ない、うん) うん

(C: ンダネー) ツ {詰} カエッデ ガー アブネーガラ、(A: ンー)  
(C: そうだねえ) × {詰} 「かえって ×× 危ないから、(A: うん)

(C: ンダナー) ヤレネッテユッデダ。  
(C: そうだなあ) できない」って言った。

038C: テッポブヂダッデナー (B: ンー) ソレダゲノ、シカグ  
猟師だってなあ、 (B: うん) それだけの 資格 [が]

アルヒトデネッカ □□□。(A: ホントダ、アレワナ)  
ある人じゃなければ [いけないんだよ]。(A: 本当だ、 あれはな)

039B : テッポブヂモ ホンナ イナインダッテナ ハ。ミンナ、(A : シ、アー  
 猟師も そんな [に] いないんだってな /。みんな、(A : ん、ああ

シダナ) (C : イナイベナ シダナー) ヘンジョーシテ、シー。  
 そうだな) (C : いないだろうな そうだなあ) 返上して、 うん。

(A : アー) (C : ヘンジョーシテ ハ) ヘン {直} シー、(A : シー)  
(A : ああ) (C : 返上して /) 返 {直} うん、(A : うん)

ユッテダナ。(C : シー)  
 言ってたな。(C : うん)

## 6.自然談話資料 2

### 収録概要

収録地点	<small>ふくしまけん そうましゆぬき</small> 福島県相馬市柚木地区
収録日時	2013（平成 25）年 8 月 30 日
話者詳細	A 女 1942（昭和 17）年生 [B の妹] 出身 …相馬市柚木地区 18～20 歳…東京都 21～24 歳…双葉郡川内村 24～68 歳…南相馬市小高区 69 歳～ …同鹿島区在住 B 女 1932（昭和 7）年生 [A の姉] 出身 …相馬市日下石地区 12～18 歳…相馬市柚木地区 18～19 歳…福島市 20～22 歳…南相馬市小高区 23 歳～ …相馬市柚木地区在住 調 男 1990（平成 2）年生 [筆者兼調査者・B の孫]
収録場所	<small>よもぎた</small> 福島県相馬市柚木字蓬田 話者 B・調査者自宅
話 題	子どもの頃に経験した農作業
収録時間	18 分 45 秒
収録担当者（調査者）	伊藤 芳樹
文字化担当者	伊藤 芳樹
共通語訳担当者	伊藤 芳樹

001B : ムガシワネー、ナー、タン〔直〕タンボー タウエワ、テウエダ テウエ。  
昔はねえ、 なあ、田ん〔直〕田んぼ、 田植えは、手植えだ 手植え。

ホースター、キンジョノ ヒドダチデ ミーンナデ、(A : ユイ) アノー ユイ  
そうして、 近所の 人たちで みんなで、 (A : 結) あのお 結

ヤッダダ ユイッテューノワ、ホッチノ ウヂサ イッテ ウエデ、コンド  
やったんだ。結っていうのは、 そっちの 家に 行って 植えて、「今度

ナンガツ ナンニヂワー ドゴノ ウヂノッデ コー、ジューニンカラ  
何月 何日は どの 家の」って こう、10人から

ジューゴニングライナ、アヅマッテ キョードーサギョーミタイナノ  
15人ぐらいな、 集まって 共同作業みたいなの〔で〕

オタガイニ タスケアツタンダナー。<sup>13</sup> ンー (調 : ンー) ホステ、ア  
お互いに 助け合ったんだなあ。 うん (調 : うん) そして、あ

イマミダイニー ハウスデ ナイ ソダデルンデナクテ、  
今みたいに [ビニール] ハウスで 苗 育てるので〔は〕なくて、

ジカンマギデー、ナワシロツテューノ <sup>14</sup> ツグッタンダナ。(A : ンー  
直播きで、 苗代っていうの 作ったんだよな。(A : うん

ソーダネー ンー) ンー オッテ ソゴデ マンズ、アサ、ゴジゴロガラー、  
そうだねえ うん) うん そして そこで まず、朝、5時頃から、

ナイヒキ <sup>15</sup> マンズ ハジマンダ、(A : ンー、ソーソー) ナイヒギ。  
苗引き〔が〕まず 始まるんだ、(A : うん、そうそう) 苗引き。

(A : ンー) ソシテ、 タバネダ ナエオ〔間〕アツメデ、ソシテ、ター  
(A : うん) そうして、たばねた 苗を 〔間〕集めて、 そして、田〔を〕

<sup>13</sup> ユエ (名) ゆひ。言海、辞林、言泉、皆古語とことわってゐるが、東条教授の調査によれば、現在ゆい又はその類似音で北は北海道から南は琉球に至る全国各地に使はれてゐる。しかし

残る田は十代に過ぎじ明日はただゆひも傭はで早苗取りてむ (堀川百首)

の歌でも判るとほり、互に人に助を頼んで早苗を植ゑることに多く使はれ、いはば農事の上の労力の相互扶助 (労働交換) に使はれるため、都会の語彙には現れないといふことである。当地では農事関係以外にも転用されてゐる。

ユエなす — ゆひをかへす (田植とか耕作とか)

ユエしっぺ — ゆひしよう (風呂で背などを流し合ふとき)

(以上『相馬方言考 改訂版』p.166より引用)

<sup>14</sup> 苗代…もみの種をまいて、植えるための苗を育てる田。一般に言われる田とは別のもの。

<sup>15</sup> 苗引き…育った苗を一把ずつ (直径5cmほど) 手で束ねて苗代から引き抜く作業。その後、苗を藁でくくって束にする。

ウエツ ドゴニ、セン <sup>16</sup> ミ ヒグ ヒトガ イルンダ。  
植える 所に、線 × 引く 人が いるんだ。

オトーサンダッタ オモニナ？ (A：ン)  
[それは] お父さんだった 主にな？ (A：ん)

002A：① \_\_\_\_\_ シー、 マガンナ {直}  
① \_\_\_\_\_ うん、 曲がらな {直}

002B：①シマインダ キチョーメンデ キチーット ヒグンダワー  
①うまいんだ 几帳面で きちっと 引くんだわ

A：②マガンネガッタナ。  
②曲がらなかつたな。

B：②アノー ナ。 \_\_\_\_\_ シー、 マガンネガッタ。  
②あのお な。 \_\_\_\_\_ うん、 曲がらなかつた。

003B：ホーッテ、オモーイ コー スジノ、シー ツクー {直} タゲデ  
そうして、 重い こう 筋の、 うん 作 {直} 竹で

ツクッター、ナイヒギノー、(A：シー) ドーグデ、ズーッド ヒ {直}  
作った、 苗引きの、 (A：うん) 道具、 ずっと 引 {直}

ヒーデ、ソレニ ソッデ、ナランデ、コシオ ンマゲデ {間} タオ  
引いて、それに 沿って、並んで、 腰を 曲げて {間} 田を

ウエデッタランダナ。 ホット ナエ テァンニエドーッテユード、  
植えていったんだな。そうすると「苗 足りないぞ」って言うと、

ナエブヂッテューノ <sup>17</sup> イデ、  
苗ぶちっていうの [=人] いて、

004A：コドモダッダランダナ ホレワナ？  
子供だったんだな それ [=苗ぶち] はな？

005B：シー、シー コドモノ シゴドワ ナエブヂ。テ コチッタ ナエ  
うん、うん 子供の 仕事は 苗ぶち。それで、「こっち [の方が] 苗

タンニエドーッテュアエッド ホゴサ ボーント ナゲデヤンダ。  
足りないぞ」って言われると、そこに ボーント [苗を] 投げてやるんだ。

(調：アー キータコト アル) シー。(A：シー) ソーシテ、  
(調：ああ 聞いたこと ある) うん。(A：うん) そうして、

<sup>16</sup> たばねた苗を植える位置を定める線のこと。

<sup>17</sup> 苗ぶち…田の外から苗を植える人に苗の束を投げて渡していく役割の人。苗を植える人は、その束から数本ずつ苗を分け取り、土に差して植える。



ウエダモンダッダンナー。(A:シー シー)  
植えたものだったのなあ。(A:うん うん)

006A: ソ {直} ソシテー ソノ {咳} ナイヒギニ アサ ゴジゴロ クルー  
そう {直} そして その {咳} 苗引きに、 朝 5時頃 来る

ヒトタチニ、アサゴハンオ ゴチソースノ。(調:シー)  
人たちに、朝ごはんを ごちそうするの。(調:うん)

007A: ①ダガラー ホーレノ オーマガネ <sup>18</sup> タイヘンダッタンダヨナ  
①だから それの お賄い 大変だったんだよな、

007B: ① シー タイヘンダ  
① うん 大変だ。

A: ②ジューニンカラ、 ナーニ ゴチソー  
②10人から、 どんな ごちそう

B: ② ジューニンモ ジューゴニンモダモノ。  
② 10人も 15人もだもの。

A: ③ツクッタンダベナー? オ {直} オニシメ ツグッターリ、  
③作ったんだろうなあ? お {直} お煮しめ 作ったり、

B: ③ シナー アレワ タイ {詰}  
③ なあ あれは 大 [変だった] {詰}

008A: アドー、(調:シー) サンマ ヤイダリ シタッタノガナ?  
あと、(調:うん) さんま 焼いたり したのかな?

009A: ①ナヘンダッタンダガ トニカグ、 タイヘンダッタンナー ヨジゴロガラ  
①なんだったんだか とにかく、[朝は] 大変だったなあ、 4時頃から

009B: ① シー ナンダッタンダガー アサー タイエンダッタ。 シー、  
① うん なんだったんだか 朝 大変だった。 うん、

A: ②ハー、 オマガネ サセラッチャンダモンナー。  
②××、 お賄い させられたんだものなあ。

B: ② オマガナイナ。 シー。  
② お賄いな。 うん。

010B: ホイツ オボエデンノ?  
それ 覚えているの?

011A: オボエデル デンキガマナッカ ナイガラ ヤッパリ、ゴハンダッテ  
覚えてる。 電気釜なんか ないから やっぱり、ご飯だって

<sup>18</sup> オマガネエ (名) お賄ひの義。食事の用意、炊事、普通語。

家が留守でオマガネエに追われる。

(『相馬方言考 改訂版』p.108より引用)

アレダッタベー？ オッキナ、カマデ ニダベー？ (B: ンダ)  
あれだったでしょ？大きな、釜で 煮たでしょ？ (B: そうだ)

012A : ① ヌガンガンマダナ、 ンー。

① 糠釜だな、 うん。

012B : ① ヌガンガンマガ？アノー、 ンー。

① 糠釜が？ あのお、 うん。

013B : ヌガンガンマダナ、 ンー。

糠釜だな、 うん。

014A : デ マズ アサゴハン、タバデ ホーストー、タンボニ デデッデ、  
それで まず 朝ごはん、 食べて、そうすると、 田んぼに 出ていって、

(B: ジュージニ イップグダ<sup>19</sup>ベ ハ) ジュージニ イップグ イツ {直}  
(B: 10 時に 一服だろ ×) 10 時に 一服 ー {直}

アノ イップグン トキニワ、  
あの 一服の 時には、

015A : ① ナニジャッタンダッタカナー？

① 何だったんだったかなあ？

015B : ① ナニ タバダッタダガナー？

① 何 食べたんだったかなあ？

016A : パンナッテ アッタッタカ？

パンなんて あったか？

017B : パンナンテ アッタンダッタベナー？ (A: ンー) パングレーダ<sup>ン</sup>ナー。

パンなんて あったんだらうなあ？ (A: うん) パンくらいだなあ。

(調: ンー) シャシン アルワー。(A: ンー) (調: ンー)

(調: うん) 写真 あるわ。(A: うん) (調: うん)

018A : アト (B: ホノコロノ) オヒル マダ アガッデクッカラ、

あと (B: その頃の) お昼 [に] また 上がってくるから、

イソガシガッタンダヨナー オヒルノ ゴチソー、ツグッテ、(B: ンダ)  
忙しかったんだよなあ、 お昼の ごちそう、作って、 (B: そうだ)

ミンナニ クアーセデ ホシテ コンドー サンジンゴロン ナットー、コンド  
みんなに 食べさせて。そして 今度 3 時頃に なんと、 今度

<sup>19</sup> エップク (名) 煙草一服の上略。小休止。

(『相馬方言考 改訂版』 p.102 より引用)

(B:シー) コジハンナ。<sup>20</sup> (B:シー コジハン) コジハンワ  
(B:うん) 小昼飯な。 (B:うん 小昼飯) 小昼飯は

ゴハンダッタナ。(B:オニギリナ) オニギリナ。(B:シー) シー。  
ご飯だったな。(B:おにぎりな) おにぎりな。(B:うん) うん。

(B:ンダー) ソシテ ワタシラ、ガッコーカイリ、ア キョーワー  
(B:そうだ) そして 私 [は]、学校帰り、「ああ 今日は

ドゴドゴデ ターウエダガラ、アノー、ソレモ タノシンミノ  
どどこで 田植えだから」、あのお、それも 楽しみの

ヒトツダッタんだヨ。コジハン ゴロ、(B:ゴッツオン ナッタノ?) シー?  
1つだったんだよ。小昼飯 頃、(B:ごちそうに なったの?) うん?

(B:ゴッツオン ナッタノ?) コジハン ゴロ、{笑} コジハンニ  
(B:ごちそうに なったの?) 小昼飯 頃、{笑} 小昼飯 [の時間] に

ナル コロ、 カイット、キョーワ ドゴドゴ X1 サンデ、  
なる 頃、[学校から] 帰ると、「今日は どどこ X1 さん [家] で、

キョー タウエダガラ、シ ソノコロ カエット、オーットウ、ホラホラ  
今日 田植えだから」、ん その頃 帰ると、×××××、「ほらほら

コッチャ コー、ホラ コジハンダガラ クエーダッテ  
こっちに 来い、ほら 小昼飯だから 食べる」なんて

ユッテ、タンボノ ネ、ン、ア {直} アノ ドーデニ  
[田植えしている人が] 言って、田んぼの ×、×、あ {直} あの 土手に

イッデ、オニギリ モラッデ クーノ {笑} {調:笑}  
行って、おにぎり もらって 食べるの [が] {笑} {調:笑}

タノシミダッダンダンナー。{B:笑} ホーシタイ シモノ シトラ  
楽しみだったんだなあ。{B:笑} そして 下 [Y01] の 人 [で]

X02 サンラワ、マズシガッダベー? オーシット イヅデモ アノ シトラワ、  
X02 さんは、貧しかったでしょ? そうすると、「いつでも あの 人は、

コジハンノ コロ トーダガラナンデ オドナノ シト ワルグヂ  
小昼飯の 頃 通るんだから」なんて 大人の 人 [が] 悪口

ユッダリシタゲドモ、アソゴノ ウヂ ビンボーダガラ カセデヤレー  
言ったりしたけれども、「あそこの 家 貧乏だから 食べさせてやれ」

<sup>20</sup> コジハン (名) 小昼飯。おやつの時刻の午後間食。(『相馬方言考 改訂版』p.120 より引用)

ッデュド、 ホラ コー、コッチデー マーレーッテュド  
って言うと、「ほら 来い、こっちに 廻れ」って言うと

ヨーロゴンデ キテ、エンリヨシテ イッコ クンダラ  
[X02 は] 喜んで 来て、遠慮して 1 個 [だけ] 食べるのなら

イベー ニコグレー クッテ。{笑} (B:アー) ンー ソーユノ  
いいのに、2 個ぐらい 食べて。{笑} (B:ああ) うん そういうの

オモイダス。(B:ンー) ンー。{間}  
思い出す。(B:うん) うん。{間}

019A : ①アノ コジハンワ ヤッパリ タノシンミダッタ オニギリ デッカイ  
①あの 小昼飯は やっぱり 楽しみだった。 おにぎり、大きい

A : ②オニギリ シオ ツケデナー。 アド タグアンダノド、ナー。  
②おにぎり 塩 つけてなあ。 あと たくあんとかと、なあ。

019B : ② ニギリナー シオ ツケデナー。 ンー、タグアングライデナー。  
② にぎりなあ 塩 つけてなあ。 うん、たくあんぐらいでな。

A : ③オカズツツタラ ホンナーモンダッダドナ。  
③おかずっていったら そんなもんだったよな。

B : ③ (調:ンー) ンー。  
③ (調:うん) うん。

020B : オガシナンチャ ネーダガラ。(A:ンー) ナ。(調:ンー) ンー  
お菓子なんては ないんだから。(A:うん) な。(調:うん) うん

ユイーツ、ホント ゴハンーガナ、タベモノダッタンダ。(A:ネー ンー)  
唯一、 本当 ご飯がな、 食べ物だったんだ。(A:ねえ うん)

アノコロナー。  
あの頃なあ。

021A : ①ヤッパリ、ゴハンワ シマガッダダヨナ ミソ、ツケダ  
①やっぱり、ご飯は おいしかったんだよな。味噌、つけた

021B : ① ミソ ツケダ オニギ {詰}  
① 味噌 つけた おにぎ {詰}

A : ②オニギリドガナ。 シ シオ ツケダ オニギリ。 ンー、  
②おにぎりとかな。 ん 塩 つけた おにぎり。 うん、

B : ② ンー、 シオ ツケダ オニギリドガナ。 ンー。  
② うん、 塩 つけた おにぎりとかな。 うん。

A: ③ ミソオニギリ。 アド キューリー フトーイノ、ツケダノナ、  
 ③ 味噌おにぎり。 あと きゅうり 太いのを、 漬けたのな、  
 B: ③ ンダンナー。 アー キューリ  
 ③ そうだなあ。 ああ きゅうり

A: ④ ヒトリ イッポンライズツ モラッデヨー。 ゴロツゲ。  
 ④ 1人 1本くらいずつ もらってよ。 ごろ漬け。  
 B: ④ ツケダノ、シー シナ {話} ゴロツゲナ。 21  
 ④ 漬けたの、うん ×× {話} ごろ漬けな。

A: ⑤ シー。 ホシデー カジリナガラ、オ {直} オニギリ クッデ  
 ⑤ うん。 そして かじりながら、 お {直} おにぎり 食べて  
 B: ⑤ シー ホイツ カジリナガラ、 オニギリ  
 ⑤ うん そいつ かじりながら、 おにぎり

A: ⑥ ホレ、 コジハン、コジハン、ダッタンダナー、 シー。  
 ⑥ ほれ、 小昼飯、 小昼飯、 だったんだなあ、 うん。  
 B: ⑥ クッタンダンナ。 シー、 シー。(調:シー)  
 ⑥ 食べたんだよな。 うん うん。(調:うん)

023B: シー、デ タノクサトリワー、 22 コ アイダオー (A:アー) コー  
うん、× 田の草取りは、 こう 間を、 (A:ああ) こう  
 ハリナガラ、テーデー コー クサ トッタンダゲドモ、タノクサトリーモ  
 張りながら、 手で こう 草 取ったんだけども、田の草取りも  
 ヒト タノンダンダナ ンダゲドモ {途}  
 人 [に] 頼んだんだな。 けれども {途}

024A: ウギナイサシッテユノモ 23 ヤッタベ?  
浮き苗差しっていうのも やったでしょ?

025A: ① アー オレア ウチノ ヒトダゲデ ヤッタンダベ? アレ。  
 ① ああ それは 家の 人だけで やったんでしょ? あれ。

025B: ① アー ソーダンナー シー ディノ ヒトダゲダー。  
 ① ああ そうだなあ うん 家の 人だけだ。

A: ② ウギナイサシッテユノワナ。ウギナイサシッデ ワガルー?  
 ② 浮き苗差しっていうのはな。浮き苗差して 分かる?  
 B: ② タノクサトイ。(調:シー?)  
 ② 田の草取り。(調:うん?)

21 ごろ漬け…きゅうりやキャベツなどの野菜を大きくぶつ切りにして漬物にしたもの。

22 田の草取り…田に生えた雑草を四つん這いになりながら手作業で取ること。

23 浮き苗差し…田植えの後、土から抜けて水に浮いている苗を補植していく作業。

026A : ター ウエダ ドゴロー、ヤッパリー、シマグ ウワッデナイ  
 田 植えた 所を、 やっぱり、 うまく 植えられていない

ドゴロー、ズーット タンボン ナガ アルイデッテー、(B: ウエデ {直})  
 所を、 ずっと 田んぼの 中 歩いていって、 (B: 植えて {直})

ウエデッ ドゴ) ウギナエダガラー {詰} (B: ナエガ ウエデッ トゴ)  
 植えてある 所) 浮き苗だから {詰} (B: 苗が 植えてある 所)

ウエデッ トゴニー、(調: ンー) モイッカイ {詰} (調: アー) ウエルノ  
 植えてある 所に、 (調: うん) もう 1回 {詰} (調: ああ) 植えるの、

ウエナオシスルッテユノカ? (調: ンー) ネ。  
 植え直しするっていうのか? (調: うん) ね。

027B : ホンナゴドモ ヤッダナ。(A: ンー) ッテ ホノツギ タン {直}  
 そんなことも やったな。(A: うん) そして その次 田ん {直}

028A : ② タノクサ ヤツタノガ? ンー。  
 ② 田の草 [取りも] やったのか? うん。

028B : ② タノクサトリ ヤッテー。(調: ンー) ホレガラ {途}  
 ② 田の草取り やって。(調: うん) それから {途}

029A : アド タングルマオシモ ヤツタンデショ? (B: タングルマオシモ ヤツタ)  
 あと 田車押しも やったんでしょ? (B: 田車押しも やった)

ンー タングルマオシワ、ケッコー ナエー ソダッテカラ ヤンデショ? <sup>24</sup>  
 うん 田車押しは、 結構 苗 育ってから やるんでしょ?

030B : ンー トウー。(A: ンー) ナエ ソダッデガラワ、(A: キカイ {直})  
 うん ×××。(A: うん) 苗 育ってからは、 (A: 機械 {直})

キカイノー コー) ンー イチダーイーノ ヤヅドー フタツツ クルマ  
 機械の こう) うん、1台の やつと、 2つ 車 [輪が]

クツツイデンノドナ? (A: ンー) オシタナ、 (A: ンー) ワタシモ  
 くつついているのとな? (A: うん) 押したなあ、(A: うん) 私も

オシタナ。(A: ンー)  
 [田車を] 押したな。(A: うん)

031A : アダシモ ソレ ヤッデミダクテサー シトツツ ツイテデンノデ  
 私も それ やってみたいくてさ、[車輪が] 1つ ついでるので

<sup>24</sup> 田車押し…田に生えた雑草を除草機を押し進めて取ること。

コッテ、 ヤッタゴド アッダゲドモ、 ダンメダー チカラ ネクテ  
こうやって、やったこと あったけれども、「だめだ、 力 なくて

ダンメダーナッテ ユワレデ (B: ンダナ) アレモ {途}  
だめだ」なんて 言われて (B: そうだな) あれも {途}

032B: ケッキョグワ、デデルー、チッシャク デデル クサオ ノメッスンダガラ  
結局は、 出ている、小さく 出ている 草を 取り除くんだから

コ ヤッテナ。(A: ソーダナ) チカラ ヨーナンダナ。(A: チカラ  
こう やってな。(A: そうだな) 力 [必] 要なんだな。(A: 力

ヨーナンダナ) ンー。(A: ンー) ダガラー マ ソーヤ {詰}  
[必] 要なんだな) うん。(A: うん) だから まあ そうや {詰}

タングルンマオシー オワッデ、ソノマンマ アド ハ アギマデーナ  
田車押し 終わって、そのまま あと / 秋までな、

(A: ンー) ミズー カンリ ヤレバ ハ。(A: ンー) ンー  
(A: うん) 水 [の] 管理 やれば / [いいんだよ]。(A: うん) うん、

アドワ イーネーカリワ ハ、(A: テダモンナー) ンー テンガリダガラ。  
あとは 稲刈りは /、(A: 手だもんなあ) うん 手刈りだから。

(A: ンー) ヨンジョー {詰} ガ ゴジョーグライ モッデ、コー、(A: カン  
(A: うん) 4条 {詰} か 5条くらい 持って、こう、(A: 刈ん

{直} アノー) ヨ {直} ウン ヨゴニ カッテグンダョ シテ パタント  
{直} あのお) よ {直} うん 横に 刈っていくんだよ。そして パタント

(A: ンー) タオスンダヨナ。  
(A: うん) 倒すんだよな。

033A: デ オレア チューガッコン トギニワー、アレー、ガッコーデー、  
それで、私は 中学校の 時には、 あれ、 学校で、

(B: ホーシサンゴード イッタンダベ? ホーシ {途}) ガッコーデー、  
(B: 奉仕作業で 行ったんでしょ? 奉仕 {途}) 学校で、

ホーシサンゴード、(B: イッタンダベ?) ミッカグライ ヤッタナー。  
奉仕作業で、 (B: 行ったんでしょ?) 3日くらい やったなあ。

アー イマーデモ ワセランネンノワー、ワタシトー、X3 チャント  
ああ 今でも 忘れられないのは、 私と、 X3 ちゃんと

X2 サント サンニンデ、(B: ンー) イヂニヂニ、イッタン カッタノ。  
X2 さんと 3人で、 (B: うん) 1日に、 1反 刈ったの。

(B: ホー) カ {直} カリッパナシ。ソシテ ホンメラレデー、アノー  
(B: ほう) か {直} 刈りっぱなし。そして 褒められて、 あのお、

チョーカイノ ドキニー、{B: 笑} ユ {直} Y01 ノー、アノー、ダレド  
朝会の 時に、 {B: 笑} 「ゆ {直} Y01 の、 あのお、誰と

ダレド ダレワー、イチニチニー、イッタンノ クサ {直} アノー タウエー  
誰と 誰は、 1日に、 1反の 草 {直} あのお 田植え

{直} ア {直} ダ {直} アノ クサカイ {直} チガ イネカリ ヤッダ  
{直} × {直} × {直} あ の 草刈り {直} 違 [う]、稲刈り やった」

ッテ ホメラレダノ キオクニ アル。  
って 褒められたの 記憶に ある。

034A : ① アレ マルガネデ、カリッパナシダガラナ。

① あれ 休まないで、刈りっぱなしだからな。

034B : ① ホー ハダライア。 ンー カリッパナシダガラ。

① ほお 働いた。 うん 刈りっぱなしだから。

035A : アレ (B: ホ) イッタンテュート ナンダ?サンジューメートルノ ヨゴ、  
あれ (B: ×) 1反っていうと なんだ?30メートルの 横、

ジュー?メートルダカ? (B: ンー、 カ?) イッタンテワ? {笑}  
10? メートルだか? (B: うん、[そう] か?) 1反っては何? {笑}

{調: 笑} ナンダガ ナンガガッダヨナ キー スンナナー。

{調: 笑} なんだか 長かったような 気 するんだ [よ] なあ。

(B: イッタンガダ?) ンー ッタンガダ アノコローイ、ワダシラー

(B: 1反がた?) うん 1反がた。 あの頃、 私 [が]

イネカリニ ッタ ドゴロワ イッタンガダノ タンボ アッタンダ。  
稲刈りに 行った 所 [に] は、1反がたの 田んぼ あったんだ。

(B: ンー) Y02 ダッケガナー?

(B: うん) Y02 だっけかなあ?

036B : Y03 デネーノ?

Y03 じゃないの?

037A : Y03 ガー?オーッデー オ {直} オーヒルー ゴチソン ナッタンダナ。  
Y03 か? そうして お {直} お昼 [ご飯を] ごちそうに なったんだな。

ア ベント モッテッタンダッケガナー? アー、ゴッツオン ナッダナ  
あ、弁当 持っていったんだっけかなあ? ああ、ごちそうに なったな。



ホシト、 センセー シマーッデクンダヨナ。 ット センセーノ  
そうすると、先生 廻って来るんだよな。 そうすると 先生の

ゴッチソード ワダシラノ ゴッチロー {直} ゴツツオー チガッテ、 ッテ  
ごちそうと 私たちの ごちそう {直} ごちそう 違って、 そして

キューニ キタリシト トナリノ ウチニ イッテ オガズ  
急に [先生が] 来たりすると 隣の 家に 行って おかず

モラッテキター シト インナッケド、モ {直} モラッテキタ ウヂ  
もらってきた 人 いるんだって、も {直} もらってきた 家

アンダッケド。 ンー、 ンデ アレ オガズ チンガガッダンダンナ。  
あるんだって。 うん、それで あれ おかず 違かったんだな。

センセード。(調：ンー) (B：ンー) ンー。 トニカグ アダシラ (B：アー)  
先生と。(調：うん) (B：うん) うん。 とにかく 私 [は] (B：ああ)

ホーシサンギョーデ、 イネカリシター ホメラレダノワ ワッセランネ。  
奉仕作業で、 稲刈りして 褒められたのは 忘れられない。

イッショ (B：ホー ハタライ {途}) X02 サン ジョーズダガラ アレ アノ  
一生。(B：ほう 働い {途}) X02 さん 上手だから あれ あの

シトワ、 アノー {詰} ガッコ ヤスンデ テマトリシタングレーダガラ。 25  
人は、 あのお {詰} 学校 休んで 手間取りしたくらいだから。

(B：ンー) ソ {直} (B：ア ソーカ) ソレニ シゲギサレデ カッタ  
(B：うん) そ {直} (B：あ そうか) それに 刺激されて 刈った

カッター、 ホンーキン ナッデ。(B：ホメラッチャノー?) ンー?  
刈った、 本気に なって。(B：褒められたの?) うん?

(B：ホッテ ホメラッチャノ?) ホメラッチャ。(B：アー) ダッテ、  
(B：そして 褒められたの?) 褒められた。(B：ああ) だって、

テーデ カンダガラ タイヘンダッタドー。(B：ンダドー  
手で [稲を] 刈るんだから 大変だったぞ。(B：そうだよ

ショーガクセーダベ?) ショーガッコデナイ チューガッコ  
小学生 [の頃] でしょ?) 小学校 [の頃] じゃない、 中学校 [の頃]

25 手間取り…稲刈りやイナゴ捕りなどを通して学校の資金を稼ぐこと。手間賃取り。資金が関わらないものは「奉仕作業」と呼ばれる(発話番記号 032A 参照)。

(B: チューガッコーガ?) ンー チューガッコン トギ、ンー。

(B: 中学校 [の頃] か?) うん、中学校の 時、 うん。

(B: ンナノカー) ット ワダシラ イナゴトリナンカモ サセラレタ。

(B: そうなのか) あと 私 イナゴ捕りなんかも させられた。

038B: ンダ イナゴトリワ ガッコーノ ギョージダモン。

そうだ イナゴ捕りは 学校の 行事なもの。

039A: ギョージデ ガッコーノ シキンカセギダナ?

行事で、 学校の 資金稼ぎだな?

040B: ンー シキンカセギ。

うん 資金稼ぎ。

041A: ンー イナゴトリ。{調:笑 ンー} ホーッテ アノ {詰} (B: マダ

うん イナゴ捕り。{調:笑 うん} そうして あの {詰} (B: まだ

イダダ) テ {直} テヌグイオ コー ヌッデナ。

[イナゴが] いたんだ) 手 {直} 手拭いを こう 縫ってな。

042B: フグロ モッデ、(A: ンー) コーシテ トッテ、ガッコーデワ コーユー

袋 持って、(A: うん) こうして 捕って、学校では こういう

オッキー、(A: オ {直} オッキナ カンマデー) カマ アッデ、ソシター

大きい、(A: お {直} 大きな 釜で) 釜 あって、そして

ソレオ フッターサセデッ トゴサ、コ フーニ アゲンダ。

それを 沸騰させている 所に、 こういう 風に 空けるんだ。

(A: ンー) (調: イナ {途}) フグログラ ンー、(A: ンー) グラム

(A: うん) (調: イナ [ゴ?] {途}) 袋から うん、(A: うん) グラム

ハガッテ、(A: ンー) ホーッテ、ナ、(A: ンー) ゴホービ モラッチャヨ)

計って、(A: うん) そうして、 な、(A: うん) ご褒美 もらったよ)

ゴホービ モラッタダ イッパイ トッタ ヒトワ (A: ンー) コンナーニ

ご褒美 もらったんだ いっぱい 捕った 人は。(A: うん) こんなに

トッテクル ヒトモ インダ シ。

捕ってくる 人も いるんだ ×。

043A: Y01 ワ ヤッパリナー イ {直} イナゴモ イダガラダベゲドモー

Y01 は やっぱりなあ、イ {直} イナゴも いたからだろうけれども、

Y01 ノ ヒトッデワ、 トッタダドー。(B: ハダラギモンナンダナ)

Y01 の 人っていうのは、捕ったんだよ。(B: 働き者なんだな)

X2 サラー イッカイニ、サンキロモ ヨンキロモ トツタンダガラ  
X2 さん [なんて] 1 回に、 3 キロも 4 キロも 捕ったんだから。

{調:笑} アノ ヒトラ (B:アー) イツデンモ ゴホービ  
{調:笑} あの 人 [は] (B:ああ) いつでも ご褒美

モラッタド。(B:ンダノ) ンー。ホシテ アド ミンナ、Y01 ワー  
もらっていたぞ。(B:そうなの) うん。そして あと みんな、「Y01 は

イナゴ イッガラツツテ、 Y03 ダノ Y04 ノ ヒトラモ、  
イナゴ いるから」って言って、Y03 とか Y04 [とか] の 人たちも、

(B:Y01 サ キタン?) Y01 サ キテ トツタモノ。ンー。(B:ンー)  
(B:Y01 に 来たの?) Y01 に 来て 捕ったもの。うん。(B:うん)

ワダシラモー、トッタ ホーダツタ。(B:ンー) ンー。ホツテ  
私たちも、 捕った 方だった。(B:うん) うん。そして

クヤシクテサー、アノー、ホガノー シトナー、 ホガノ ブラグノ  
悔しくてさ、 あの お、他の 人 [が] なあ、他の 部落の

ヒト クヤシクテ、イシコロ イレデー、{調:笑} {笑} デー  
人 [は] 悔しくて、 石ころ 入れて、 {調:笑} {笑} それで

ハガッ トギニ、ホッター ハガル ヒトガ、 ナーnde コンナニ  
[重さを] 計る 時に、 そうして 計る 人が、「何で こんなに

スグネノニー メガダ<sup>26</sup> オーインダ? ヲデューデ コーツテ  
[イナゴが] 少ないのに 目方 [は] 多いんだ?」って言って こうやって

サワッデミダツケ、イシコロ ハイッテデ、オゴラレダ ヒト イダッタヨナ  
触ってみたら、 石ころ 入っていて、怒られた 人 いたよな。

アンナノモ、キオグニ ノゴッデンナー。{B:笑} {笑} {調:笑}  
あんなのも、記憶に 残っているなあ。{B:笑} {笑} {調:笑}

044A: ① マーッタグ イロイロ カンガエ {途}

① 全く いろいろ 考え [て] {途}

044B: ① ダーラ カルシウムゲンダツタンダベゲントモ アレオ、ウッデナー

① だから カルシウム源だったんだろ うけれども あれを、売ってなあ

<sup>26</sup> めかた【目方】[名] 秤(はかり)で量った物の重さ。重量。掛け目。量目。目。

(JapanKnowledge Lib より)

A: ②ウツタンダンナー。                          ン   ソー   ソー   ソー、   ン。

②売ったんだなあ。                          ン   そう   そう   そう、   うん。

B: ② ガッコーデワ   シキンニ   シタンダンナー。                                  ンーダ

② 学校では                          資金に                          したんだなあ。                                  そうだ

A: ③    アレー                          ンミッカングライ

③    あれ                          3日ぐらい

B: ③イナゴトリモ   ヒトツノ、ウー   ギョーギー、                          ダツタンダンナ

③イナゴ捕りも                          一つの、                          ××                          行事、                                  だったんだ。

A: ④ヤツタンデネカー?                          ガッコ                          ヤスン {直}                          ガッコ                          ヤスンデッテ

④やったんじゃないか?                          学校                          休ん                          {直}                          学校                          休んでって

B: ④    ヤッダ。    ン。

④    やった。    うん。

A: ⑤イユーヨリモ、    ジギョー                          ヤンネーデ                          アサガラ

⑤いうよりも、    授業                          やらないで                          朝から

B: ⑤    ジュギョーフ                          ヤンネーデ                          ハー、

⑤    授業は    やらないで                          //、

A: ⑥ハー、イナゴトリ、(調: ン)                          ン。

⑥//、イナゴ捕り、(調: うん)                          うん。

B: ⑥    イナゴトリダモ。

⑥    イナゴ捕りだもの。

045A: ホシテ                          ナンジマデニ、ガッコーニ                          モ {直}                          アノー、    トッテ  
そして「何時までに、                          学校に    持 {直}                          あのお、[イナゴを]                          捕って

モッテコーッテユワレデー。(調: アー)                          ン。(B: イナゴ                          トッデ)

持ってこい」って言われて。(調: ああ)                          うん。(B: イナゴ                          捕って)

ド、                          アサ                          ハヤグ    トットー                          ウチ                          チョット                          ヌレデッカラ  
すると、「朝                          早く [イナゴを]                          捕ると、                          ××                          ちょっと                          濡れているから

メガダ                          オモインダツケドカ                          イロイロ、アンダヨナ                          ソユンナー?  
目方                          重いんだって」とか                          いろいろ、あるんだよな                          そうなのな?

046B: デー、                          ンナー (A: トッダナー)                          イマデゴソー、アノー                          ノーヤグ  
それで                          なあ (A: 捕ったなあ)                          今でこそ、                          あのお                          農薬

ツカウヨーンナツタガラ                          イナゴナンカ                          ハー (A: マ                          スクナイゲドナー)  
使うようになったから                          イナゴなんか                          // (A: まあ                          少ないけどなあ)

ンモーン、ン                          ミーナ {直}                          アンマリ                          メニ                          ツカネナー。

もう、                          うん                          見えな {直}                          あんまり                          目に                          つかないなあ。



054B : マーックロクッテ (B : ンー) コー ヤラ。  
真っ黒くて (B : うん) こう ××。

055A : ダッテ イマダッテ イナゴ ウッテルモンナー。(B : ウッテルー?)  
だって 今だって イナゴ 売ってるもんなあ。(B : 売ってる?)

ツクダニー。(B : アー) ンー。アレ ミチノイギドガ アーユ  
佃煮。(B : ああ) うん。あれ 道の駅とか、 ああいう

ドゴロニー。(B : アー ヤッパリー) コ {直} コゴラヘンデナクテ  
所に。(B : ああ やっぱり) こ {直} こくら辺でなくて

(B : トッ {直}) アノー ソーユーナ、(B : トッテル) ヤマノ ホー、  
(B : 捕っ {直}) あの そういうな、(B : 捕ってる) 山の 方、

(B : ウー、ウーン) ンー。  
(B : うう、うーん) うん。

056B : ノーヤグ ツカーネ ドゴナンカワ トッ {直} (A : トッデー)  
農薬 使わない 所なんかは 捕っ [て] {直} (A : 捕って)

イルンダガモシンニエナ。(A : イ {直} イルナ、ンー) カルシウムデ。  
いるのかもしれないな。(A : い {直} いるな、うん) カルシウムで。

(A : カルシウムデナー) ンー。(調 : ンー) (A : ンー、ア、アト ター {直})  
(A : カルシウムでなあ) うん。(調 : うん) (A : うん、あ、あと ×× {直})

057A : アート イネカリダッテ、イマ イネカリノ ハナシ シタゲド イネカリ  
あと 稲刈りだって、 今 稲刈りの 話 したけど、稲刈り

ソーヤッデ ヤッデ、アノー ハ {直} ハセニ <sup>27</sup>カゲダンダベ? アレ。  
そうやって やって、あのお は {直} 稲架に かけたんでしょ? あれ。

(B : ハセガゲダー) オー ハセガゲナー。(B : ンー) オーシテ アレイ、  
(B : 稲架掛けだ) おお 稲架掛けなあ。(B : うん) そうして あれ、

(B : ハーセ ヨッテナ、コー ヤッテナ、タ {詰}) ンー、ヨルノ、ツキノ  
(B : 稲架 よってな、こう やってな、× {詰}) うん、夜の、 月の

アカリデー、ヤッテタデショ?  
明かりで、 やってたでしょ?

<sup>27</sup> ハセ (名) はさ (稲架)。稲を乾燥させるため設けた施設。それに用ひるくいを「ハセグエ (はせぐい)」、竹は「ハセダケ」といふ。

宇多郷流のハセ造り方一番ええ。

(『相馬方言考 改訂版』p.149 より引用)

058B : シーダ ハセガゲ (A : ナー) シーダ。ハセヅグリナ。(A : シー) シーダ。  
そうだ 稲架掛け (A : なあ) そうだ。稲架造りな。(A : うん) そうだ。

059A : ダラー、トッチャラモー (B : ハダライダンダ) シゴド、ガッコニ  
だから、お父さんも (B : 働いたんだ) 仕事、学校に

ツトメダダガラ オネーチャラモ、ヨルー コー ツキノ アガリデー、  
勤めていたから お姉ちゃんたちも、夜 [に] こう 月の 明かりで、

イネ、カゲデンノ、 オボエデルナー  
稲 かけているの、覚えているなあ。

060A : ① イネカゲシタノ オボエデルナー。

① 稲架けたの 覚えてるなあ。

060B : ① シーダ コーユ フーニ サンギッチョッデユツテ、 28

① そうだ こういう 風に サンギッチョって言って、

061B : サンボンアシデ コーヤッタ ドゴサ、コー ワダシテ、コー  
3本足で こうやった 所に、 こう 渡して、 こう

サンギッチョ、 カゲテ コー、ワダシテ コー、シバッテ ソゴサ、  
サンギッチョ [を] かけて、こう 渡して、 こう 縛って、 そこに

コユ フーニー ワラオ タバネダヤヅオ コーユ フーニ ヒロゲデ、  
こういう 風に わらを 束ねたやつを こういう 風に 広げて、

ドーント カゲデ、ホーット カゲデ、ナ。  
ドーンと かけて、ホーっと かけて、な。

062A : ① シーダ イマーナー アンマリ ソユーノー

① そうだ 今はなあ、 あんまり そういうの [は]

062B : ① ズーットー イナガギナ。 イマワ スングニ

① ずっと 稲垣な。 今は、 すぐに

A : ② ナイヨナー。ナワヤー、 コイデ ハー、 シン モミー

② ないよなあ。縄や、 こいで //、 ん ん 靱に

B : ② ハー、 コイデ ハー ソノママ ハ、

② // こいで // そのまま /、

28 サンギッチョ (名) 竹や棒を三脚に組んで立てたもの。物干竿などのせる。

(『相馬方言考 改訂版』p.228 より引用)

2台1組のサンギッチョに竹を渡し、穂を下にした稲を跨がせるように掛けて干すことを「稲架掛け」と呼ぶ(発話番記号 056A 参照)

A: ③ シッチマンダモンナー。 ー。 (調: ー) ー、 ムカシー、  
 ③ してしまうんだもんなあ。 うん。 (調: うん) うん、 昔、  
 B: ③ モミニ シチマウガラ、 キカイカダガラ。 ムガシア セン {直}  
 ③ 粳に してしまうから、機械化だから。 昔は せん {直}

A: ④ テシゴドダッタモンナー。 マーッタグ イロイロ。  
 ④ 手仕事だったものなあ。 全く いろいろ。  
 B: ④ ゼンブ テシゴドダッタガラナー。 ー。  
 ④ 全部 手仕事だったからなあ。 うん。

063B: ホデ ダンダント コンド ウチニ、アーノ イネ コグ キカイ、  
 それで、だんだんと 今度 [は私の] 家に、 あの 稲 こぐ 機械、

ジダヅッデュッテ、 (A: ー) ナヤニ イーネコギ  
 自脱 [型コンバイン] って言って、(A: うん) 納屋に 稲こぎ

キカイ (A: アー) イレルヨーニ ナッデ ウチデモ ソノ ナヤサ  
 機械 [を] (A: ああ) 入れるようになって、[私の] 家でも その 納屋に

イレルヨーニ ナッデ、(A: ー ー) ー ホーッテ コンドー、  
 入れるようになって、(A: うん うん) うん そうやって 今度、

イネオ アゲデキタ ヤヅオ コンド ュ イッパズヅ コー ワダスノ  
 稲を 上げてきた やつを、今度 [は] × 1 把ずつ こう 渡すの。

ソレア ヤッパリ ヤギョーナンダヨ。(A: ー  
 それ [=稲こき] は やっぱり [家族総出の] 家業なんだよ。(A: うん)

ニ ーダナー) ハヂジ クンジ ジュージッコロンマデナンダ。(A: ー)  
 × そうだな) 8時 9時 10時頃までなんだ。(A: うん)

ソーシテ ワッセランニエノワ、ワッセランノン {詰} ヌワ ハー、ナー  
 そうして 忘れられないのは、忘れられない {詰} のは / /、なあ

トニカグ ハ ヤッチマエバ オワリダドモッデッカラ  
 「とにかく / [早く稲こきを] やってしまえば 終わりだ」と思ってるから、

ギーンギン ギーンギン ギンギン イレンダナ。(A: ー) ット  
 ギーンギン ギーンギン ギンギン [稲を] 入れるんだな。(A: うん) すると

Bワ ハエードモッタラ、{A: 笑} ヒトツモ コー {直}  
 「Bは [作業が] 早いと思ったら、{A: 笑} 1つも こ {直}

(A: コイデネ) コイデネー コレ コンナニー、イナホ クツツガッテル  
 (A: 漕いでない) 漕いでない、これ こんなに、 稲穂 くつついている



コレナンテ ユオ {直} オゴラッチェヨー。(A:アー) ハヤグ  
これ」なんて お {直} 怒られてよ。(A:ああ) 早く

オワラセダクテー、{A:笑} ドンドン ツメンノヨ ハ コ。ズーッと  
終わらせたくて、{A:笑} どんどん 詰めるのよ / こう。ずっと

イッテ バタント ヤッテガラ コー ヤンネッカナンネーノニ、 ッキ、  
いって バタンと やってから こう やらなければならないのに、××

ツギツギ ツメンノヨ ハ ハヤグ ヤリダクテ ハ。  
次々 詰めるのよ / 早く やりたくて /。

064A: ①シー ホシト、 キレーニ トレデナインデシヨ?

①うん そうすると、綺麗に とれてないんでしょ?

064B: ① ホット コッチガーサ キレーニ トレダナクテ

① そうすると、こっち側 [が] 綺麗に 取れていなくて

A: ② クッツガッテンノ。 ン。

② くつついてるの。 ん。

B: ②クッツガッテンノヨ。 コレミロ コレマダ コンナニ

②くつついてるのよ。 「これ見ろ。これまだ こんなに

A: ③ホッテ ヤリナオシ? {笑}

③そして やり直し? {笑}

B: ③クッツガッテッカラ、ヤリナオシ。{調:笑}

③くつついてるから、 やり直し。 {調:笑}

065B: ホイツ ワスレランニェンダ。

そいつ 忘れられないんだ。

066B: ①ハヤー {直} アン {直} アントギノ シンリワ ハヤーグ

①早 [く] {直} あの {直} あの時の 心理は 早く

066A: ② マ ソンダベナー、 ジュージ ジューイヂジグライン

② まあ そうだろうなあ、 10時 11時ぐらいに

B: ②オワラセデンダン ジュージッコロナンダモー ハー。

②終わらせたいんだ 10時頃なんかも [の] //。

A: ③ナンダモンナー。シー、 デモ ヨーグ ヤッダデョー。

③なるんだもんなあ。うん、 でも よく やったよ。

B: ③ ンダー。テツダイ。 アノコロワ、

③ そうだ。手伝い。 あの頃は、

067B: マ オトナン ナッテダッタガラダッタゲドナ (A:シー) コドモンデワ

まあ 大人に なってからだったけどな、 (A:うん) 子供では

ネガッタゲド、シー ヨグヤッダ。ホーッテ フルイ ウヂサー、(A:シー)  
なかったけど、うん よくやった。そうして 古い 家に、(A:うん)

イネアゲワ ミンナ ザシギサ イネ カサネタンダ。(A:シー ソーソー  
稲上げは、みんな 座敷に 稲 重ねたんだ。(A:うん そうそう

ソーソー ンダナー) ナー。{A:笑} イマ カンガエランニエド。コ  
そうそう そうだなあ) なあ。{A:笑} 今 考えられないぞ。 こう

ユガイダノ、トゴサイ、ギッシリド ハー アンメ フツテクッカラーンナンテ  
床板の 所に、 ぎっしりと //「雨 降ってくるから」なんて

ハ、(A:シー ン) ウチン (A:ナヤー {途}) ナガサ オッコンダンダー。  
/、(A:うん ン) 家の (A:納屋 {途}) 中に 押し込んだんだ。

068A: ナヤーンデワ オッコンメギレナクテダベ? (B:シー ンダ ンダ  
納屋では [稲を] 押し込め切れなくてでしょ? (B:うん そうだ そうだ  
ンダンダ) ローカサ ヤッター、  
そうだそうだ) 廊下に [稲を] 置いて、

069A: ①コンド ウヂン ナガサ ヤッデ、デ ドゴサ ネダンダッタベ?  
①今度 家の 中に やって、それで どこに 寝たんだけ?

069B: ① \_\_\_\_\_ ウヂン ナガサ ヤッ {詰} \_\_\_\_\_ ンダ  
① \_\_\_\_\_ 家の 中に やっ {詰} \_\_\_\_\_ あれだ

A: ② \_\_\_\_\_ アー、シー ネット トゴワ アッタモンナ カゲノー  
② \_\_\_\_\_ ああ、うん 寝る 所は あったもんな。 陰の

B: ②スミッコノ カンドノ、 カゲノ ホーサ ネヤッダモンナ。  
②隅っこの 角の、 \_\_\_\_\_ 陰の \_\_\_\_\_ 方で 寝ていたもんな。

A: ③ヘヤトガナ。チャノマドガナ。 シー。 \_\_\_\_\_ アートー、  
③部屋とかな。茶の間とかな。 うん。 \_\_\_\_\_ あと、

B: ③ \_\_\_\_\_ シー。 イヤー ワレワレノ ジダイ。  
③ \_\_\_\_\_ うん。 いやあ 我々の 時代。

070A: ワラブドンニ ネダ オボエネーガ? (B:アー アルアル) シー。  
わらぶとんに 寝た 覚えないか? (B:ああ あるある) うん。

071B: ワラブドン ワラブドンワ アッダガインダーッテ。 (A:シー)  
わらぶとん、わらぶとんは 暖かいんだって [いうことなんだ]。(A:うん)

アノコロ ナンダ ワラ ンナクテ、ネー。  
あの頃 [は]、なんだ 藁 なくて、ねえ。

072A : イ {直} イ {直} イヂジー、ハヤッタンダドナ。(B : ンー) ドゴデシモナ、  
× {直} × {直} 一時 [期]、流行ったんだよな。(B : うん) どこでもな、

ワラブドンナ?  
わらぶとんな?

073B : コー ワラオ スグッタ カ {直} アノ カスオ イレンダベ?  
こう 藁を すぐった カ {直} あの カスを 入れるんでしょ?

074A : ① ンー ワ {直} ワラオ スグッター、カスオ、 イ {直} イレデ フトン  
① うん わ {直} 藁を すぐった カスを、 い {直} 入れて ふとん

074B : ① (調 : ンー ンー) フツ {直}  
① (調 : うん うん) ふつ {直}

A : ② ツクッタンダヨナ。 (調 : へー) ッタ ガシャガシャ  
② 作ったんだよな。 (調 : へえ) すると ガシャガシャ

B : ② フトンノ ンー コー、フグロン ナガサ イレデ、 ット  
② ふとんの うん こう、袋の 中に 入れて、 すると

A : ③ ガシャガシャ オドワ スッケントモ、 ンー。  
③ ガシャガシャ 音は するけれども、 うん。

B : ③ ガサガサ ガサガサ スンダエント、 アッタガイנדヨナー。  
③ ガサガサ ガサガサ [藁の音が] するんだけど、暖かいんだよなあ。

075A : ホシテ {詰} アノ ホースット、フアーット ナツテウ  
そして {詰} あの [わらぶとんを] 干すと、 ふわーつと なって、

スーンゴッ プアツグナンダナ。  
すごく 分厚くなるんだな。

076B : ンー ダラ {A : 笑} アレ ヤッパリ  
うん だから {A : 笑} あれ [は] やっぱり

077A : ① ンデモ アンナノ イ {直} イヂネンカ、 ニネン {直} ェ ソンナニ  
① でも あんなの い {直} 1年か、 2年、 {直} あ、そんなに

077B : ① ニンゲンノ、 チェナン、ホコラダナ。  
① 人間の 知恵なん、そこらだな。

A : ② ナンガグワ ヤンネガッタヨ。ンー ドーゴノ ウヂデモー ヤッデダ  
② 長くは やらなかったよ。うん どの うちでも やってた

B : ② ンナリヤッパリ アレワ  
② ならやっぱり あれば、

A: ③アレナ。 (調:シー) ンーダ ンーダ。 アー。  
③あれ [は] な。 (調:うん) そうだ そうだ。 ああ。

B: ③セーカツノ チェダッタンダベ? ムガシガラノナ。 シー ナエント  
③生活の 知恵だったんでしょ? 昔からのな。 うん だけれど

A: ④ンダガア {途} ンー。 ンーダ、  
④そうだから {途} うん。 そうだ、

B: ④アノ {曖} ジダイデ ハー オワリダッダナ ワレワレナン {直}  
④あの {曖} 時代で // 終わりだったな。我々なん {直}

A: ⑤ ンー。 オボエデル ワダシモ ソンナニ ナンガグワ  
⑤ うん。 覚えてる 私も。 そんなに 長くは

B: ⑤アー イチネングライ、 ネタガ? (調:シー)  
⑤ああ 1年くらい、 寝たか? (調:うん)

A: ⑥ツツガンナガッダナッデ オボエデル。 ンー。  
⑥続かなかったなって [いうのを] 覚えてる。 うん。

B: ⑥ ツツガネー。 ンー。 コノ カンショグワ  
⑥ 続かない。 うん。 この 感触は

A: ⑦ ンーンー、 ンーンー。  
⑦ うんうん、 うんうん。

B: ⑦ワガ {直} オボエデッゲントンナ。  
⑦分か {直} 覚えてるけどな。

078A: {笑} (B: ンダンナー) ナンダワナー。 (調:フシギネー) ヤッパ  
{笑} (B: そうだなあ) なんだわなあ。 (調:不思議ねえ) やっぱり

コーユーノンモ、ウ {詰} ダレガ カダンネド、ホントニ ワスレラレルナ。  
こういうのも、 × {詰} 誰か 語らないと、本当に 忘れられるな。

079B: ワスレラレルナー (A: ンー) ダレカガ カタッテ ノコサナゲレバナ。  
忘れられるなあ。 (A: うん) 誰かが 語って 残さなければな。

(A: ンー) (調:ネー) ンー、(A: ナンデモ ソーダゲントナ) ホントダ。  
(A: うん) (調:ねえ) うん、(A: 何でも そうだけれどもな) 本当だ。

イショクジューナ。(A: ンー イニ) ンー ホントダ。(A: ショク)  
衣食住な。(A: うん 衣に) うん 本当だ。(A: 食)

(調: ンー) モー (A: ジュ) オッテ センソーニー ハイッタ コロワ  
(調: うん) もう (A: 住) そうして 戦争に 入った 頃は、

ショグリョーナンダガラソナ。ホントニ コメツブナンテ、  
食糧難だからな。 本当に 米粒なんて、

ワズカーングライデ アド ジャガイモダノ、カボチャダノ  
僅かぐらいで、 あと じゃがいもとか、かぼちゃとかの

ゴハンデナー。(A:シー) ジャンガイモゴハン。  
ごはんでああ。(A:うん) じゃがいもご飯。

080A: ①ワデ {直} ン、オラワ ホンナーノ、キオグワ ネーンダンナ。 ダッデ  
①×× {直} ン、私は そんなの、記憶は ないんだな。 だって

080B: ① ネーンダー  
① ないんだ。

A: ② ジューシチネ ンマレダガラナ。 シー  
② [昭和] 17年 生まれだからな。 うん

B: ② コノヒト ネーンダ ンマレダガラ。(調:アー)  
② この人 ないんだ [昭和 17年] 生まれだから。(調:ああ)

A: ③ワダシ ンデモ Y05 デ ンマレダンダベガラ。 シー  
③私 [は] でも Y05 で 生まれたんだろうから。 うん。

B: ③ンダワ。 Y05 デ ンマレタンダ、  
③そうだわ。 Y05 で 生まれんだ、

081A: デモ アダシ、(B:センサーチュー {途}) デ ヤッパリ アダマニ  
でも 私、 (B:戦争中 [に] {途}) × やっぱり 頭に

ノゴッデンノワ、アーノ ガッコーンノ、インマデユード コーテー  
残っているのは、あの 学校の、 今で言うと 校庭

ナンダベゲンドー ソラーガラ、ギンガミーミダイナノ <sup>29</sup> カシャカシャ  
なんだろうけれど、空から、 銀紙みたいなのが カシャカシャ

カシャカシャ カシャッテユノ コ、 イーッパイ オチテキタノー、  
カシャカシャ カシャっていうの こう、いっぱい 落ちてきたの、

アーレワ キオグニ アンダヨナー。  
あれは 記憶に あるんだよなあ。

082B: ナンダッタナンダベ? ナニカ マガッチャンダナ。  
なんだったんだろう? 何か 撒かれたんだな。

<sup>29</sup> チャフのこと。電波欺瞞紙、電探欺瞞紙ともいう。

チャフ【chaff】 レーダー妨害片。対電子戦資材の一つで、電波反射率の高いアルミ箔片（はくへん）など。敵レーダーの探知を妨害、あるいはレーダー誘導式のミサイルの攻撃を回避するため空中に散布する。  
(JapanKnowledge Lib より)

## 参考文献

- 川越めぐみ (2012) 「第 2 章 方言のこれからの記録に向けて」 東北大学方言研究センター (編) 『方言を救う、方言で救う 3.11 被災地からの提言』 pp.57-79 ひつじ書房
- 菅野 宏 (1982) 「12 福島県の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 4—北海道・東北地方の方言—』 pp.365-397 国書刊行会
- 国立国語研究所 (編) (2006) 『全国方言談話データベース 日本ふるさとことば集成 第 3 巻 宮城・山形・福島』 国書刊行会
- 東北大学方言研究センター (編) (2013) 『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集—宮城県沿岸 15 市町—』 東北大学大学院文学研究科国語学研究室
- 東北大学方言研究センター (編) (2014) 『生活を伝える被災地方言会話集—宮城県気仙沼市・名取市の 100 場面会話—』 東北大学大学院文学研究科国語学研究室
- 東北大学方言研究センター (編) (2015) 『生活を伝える被災地方言会話集 2—宮城県気仙沼市・名取市の 100 場面会話—』 東北大学大学院文学研究科国語学研究室
- 新妻三男 (1973) 『相馬方言考 改訂版』 相馬郷土研究会
- 福島大学人文社会学群 (2015) 「2014 年度文化庁委託事業報告書 被災地の小中学校における方言教育実践の構築—地域方言の継承に向けて—」 福島大学人間発達文化学類国語学研究室
- 三井はるみ (2011) 「我が国における言語・方言の現状」 木部暢子・三井はるみ・下地賀代子・盛思超・北原次郎太・山田真寛 『文化庁委託事業 危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業報告書』 pp.17-36 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

## 参照サイト

- 北原電牧株式会社「ベーシック電気柵 Introduction：電気さく？電気柵？」北原電牧株式会社 HP <<http://kitaharadenboku.com/cyoujyuu/power.html>> (最終閲覧日 2016 年 2 月 15 日)
- 相馬地方市町村会「相馬地方とは」相馬地方御案内処 HP<<http://www.soma-area4.jp/aboutus.html>> (最終閲覧日 2016 年 2 月 14 日)

## 辞書引用項目

- “たぐる【田畔】”，“たの畔（くろ）”（親見出し“た【田】”），“め-かた【目方】”（いずれも日本国語大辞典, JapanKnowledge Lib, <<http://www.jkn21.com>>, (最終閲覧日 2016 年 2 月 15 日))
- “チャフ【chaff】”，デジタル大辞泉, JapanKnowledge Lib, <<http://www.jkn21.com>>, (最終閲覧日 2016 年 2 月 17 日)

(いとう よしき 大学院人文社会系研究科 修士課程 2 年)